

大学生協オリジナルセットアップテキスト



Dynabook RCA73シリーズ

箱を開ける前に必ずお読みください

- ・セットアップにはインターネット接続環境が必要です。
- ・Microsoft Officeについては購入された大学生協店舗からの案内をご確認ください。



目次

1. 無料パソコン電話サポート	4ページ
2. セットアップの準備	5ページ
3. Windowsの設定	10ページ
4. デバイスの暗号化について	 必読 24ページ
5. Windows Updateについて	 必読 36ページ
6. Windows11の主な操作方法について	40ページ
7. ネットワーク接続について	45ページ
8. 活用編	53ページ

このパソコンは大学生協オリジナルモデルです。
一般に販売されているパソコンとは異なる点がありますので
このセットアップテキストを使用して設定して下さい。
本セットアップテキストは大学生協が発行しております。

パソコンをご使用になるまでの流れ

1. 無料パソコン電話サポート

4ページ

△重要

今回ご購入いただいたパソコンには、無料で問い合わせ可能な電話サポートがついています。困った事がありましたらお気軽にご相談下さい。

2. セットアップの準備

5ページ

パソコンはほかの電化製品と違い、電源を入れてすぐに使用することができません。

初めて電源を入れるときには、セットアップという作業が必要となります。本テキストでは、初めての方にもわかりやすく解説していきます。

3. Windowsの設定

10ページ

 インターネット [ここからインターネットへの接続が必要です](#)

初めて電源を入れたときにWindowsのセットアップが開始されます。使用者ご本人の登録など、基本的な設定を行います。

4. デバイスの暗号化(BitLockerの機能)について

24ページ

💡 必読

本章はWindowsのセットアップに関するページではありませんが、暗号化機能がオンになることで発生する、パソコン修理時のトラブルを回避するために必読していただきたいページです。

5. Windows Updateについて

36ページ

💡 必読

セキュリティを向上させたり、不具合を解消する機能がWindows Updateです。Windows Updateを行わないとトラブルの原因になることやコンピュータウイルスに感染する危険性が高まることになります。

6. Windows11の主な操作方法について

 参考

40ページ

Windows11の基本的な操作の説明です、パソコンやWindowsの操作に慣れていない方はご参照ください。

以降は活用編です、参考にお読みください。

ページ

2

パソコンを正しく大切に使いましょう

気をつけよう！

※破損、水濡れはメーカー保証期間中でも有料の修理となります

落下にご注意ください



- ・パソコンが引っ掛けられてしまわないように置き場所に気を付けましょう。
- ・移動の際はパソコンを閉じてきちんと持ちましょう。

飲食にご注意ください



- ・パソコンを使いながらの飲食は控えましょう、テーブルの上の飲み物に注意しましょう。
- ・飲み物、水筒のふたは確実に締めましょう。

落下!飛来!物にご注意ください



- ・棚の上や、手に持っているものを落ちないように、落とさないようにしましょう。
- ・教室などでボールの投げ合いはやめましょう。

雨にご注意ください



- ・パソコンの保管場所、窓の締め忘れに注意。
- ・雨に濡れそうなときは防水バッグを使うかパソコンをビニール袋にくるんで持ち運びましょう。

乱暴な取り扱いにご注意ください



- ・パソコンをむき出しで持ち運びはやめましょう、振動にも注意。
- ・画面を掴んで持ち上げることはやめましょう。

満員電車にご注意ください



混雑している場所ではバッグがつぶされないように注意しましょう。手で抱える、なるべく高い位置に上げたり、足の間に置いてパソコンに力が加わらないようにしましょう。

ベッド、布団での使用はご注意ください



- ・ベッドの上で使用して、そのまま寝てしまいパソコンが落下や破損。机の上に物がいっぱいパソコンをベッドに避難させそれを忘れてベッドに…。

足もとにご注意ください



- ・ACアダプタの接続は引っ掛けることがないように余裕を持った配線、取り回しをしましょう。
- ・パソコンを床に置くようなことはやめましょう。

挟み込みにご注意ください



ノートパソコンの画面を閉じる際には、何も物がないことを確認するようにしましょう。
イヤフォンやペンをキーボードの上に置いたままパソコンを閉じてしまうと高確率で液晶画面が破損をしてしまいます。

1. 無料パソコン電話サポート

今回ご購入いただいたパソコンには、無料で問い合わせのできる電話サポートがついています。
困った事がありましたら、お気軽に「大学生協 無料パソコン電話サポート」にご相談ください。

サポートのご利用方法

下記の電話番号にお電話ください。

- * 初めての問い合わせの際は、
氏名・電話番号・大学名・パソコン型番(外箱や保証書に書かれています)を
お聞きます。
- * 次回のお問い合わせからは電話番号のみをお伝えください。

サポート期間: 2027年2月28日まで
電話相談受付時間: 10:00~23:00
電話番号(通話無料):
0800-300-3337

ご利用の注意点

SUPPORT

大学生協

無料パソコン電話サポート

大学生協パソコン電話サポートは、大学生協オリジナルパソコンをご購入いただいたお客様のヘルプデスクです。対象のパソコンやプリンターにトラブルが発生した場合、下記要項により大学生協パソコン電話サポートにご相談ください。
※全国の大学生協が共同で設置している電話サポートセンターです。

サポート期間 2025年12月1日~2027年2月28日

電話相談受付時間 10:00~23:00
(土・日・祝祭日も可・年末年始も含む)

※安心して
お電話ください
専門のスタッフが
ご案内します。

サポートのご利用方法

1 電話サポートに問合せ
大学生協専用ダイヤル… 大学生協無料パソコン電話サポート
(フリーコール) **0800-300-3337** (携帯電話可)
※お問合せ対象のパソコンに電話が入った状態で利用してください。


2 初めての問合せの時は、お名前・電話番号・大学名・
パソコンの機種(型番)をお聞きます。

3 電話サポート開始
※サポート内容によっては、通話操作での対応も可能です。

大学生協無料パソコン電話サポート利用時のお願い

①電話相談はメンバー制なので大学生協のオリジナルパソコンご購入の方だけが対象となります。
お電話は学生様ご本人からお願いします。
②初めてののご利用の際はメンバー登録をお願いします。2回目からは電話番号を伝えてください。
③電話をする際、対象となるパソコンのメーカー名、機種名、シリアル番号を正確にメモしてください。
④お困りな白色や、トラブルに起因する原因、トラブルの状況を正確にお伝えください。
⑤学内LANへの接続に起因するトラブルは学内のNetwork管理室にお問合せください。
⑥ご自宅でごインストールされたソフトや、接続された周辺機器につきましては、サポートできない場合がございます。

※パソコン電話サポートで提供したサービスは、個人情報は、電話サポートの業務のみで
は利用しません。また個人情報は厳密に管理されるほか、開示を要することなしに
情報の提供は行わず、保護に努めます。詳しくは全国大学生協連合会ホームページ
「個人情報保護に関する基本方針」<http://www.univcoop.or.jp/pc/0301>


ucf2025001

△重要

* 学生様がご自身でパソコンを使いこなせるように成長するための支援を目的としております。
大変恐縮ですが、保護者様ではなく、学生様ご本人からお電話をいただきますようお願いいたします。

* ご購入いただいたパソコンやプリンタ専用のサポートダイヤルです。
他のパソコンのご質問は承れません。

* サポート期間終了後のご質問はメーカー直接か、生協店舗にお問い合わせください。

* 3~5月は電話が大変込み合います。
11時~15時が比較のお電話がつながりやすい時間帯でございます。

2. セットアップの準備

Microsoft（マイクロソフト）アカウントの確認

Windowsパソコンのセットアップや一部の設定にはMicrosoftアカウントが必要です。

セットアップを開始する前に使用するアカウントをどうするか決めましょう。

* 新規作成の場合は、この後の手順で作成方法の説明があります。

☐ 新しいパソコン、新しい大学生活に合わせて
新規にアカウントを作りたい
もしくは、今までMicrosoftアカウントは使用
していない

☐ すでにMicrosoftアカウントを使用している、
新しいパソコンにも今までの情報を引き継ぎたい

このパソコンで使用するMicrosoftアカウントの記録

どのアカウントでセットアップ、使用を開始するかメモか写真を残しておきましょう、他人に知られないようにアカウントIDとパスワードを一緒に記録、保管することはやめましょう。

* 大学側からMicrosoft365用に提供されるMicrosoftアカウントがある場合にこのアカウントと混同されないようにご注意ください。

* このパソコンで使用するMicrosoftアカウント



【参考】 Microsoftアカウントとは
詳しくお知りになりたい方は、Microsoftの
ホームページでご確認ください。

2-1. 箱を開けたらすぐに確認しましょう

付属品一覧、すべて揃っているか確認してください。

- ☐保証書
- ☐ACアダプター
- ☐電源コード
- ☐スタートアップガイド
- ☐最初の案内(付属品確認・準備・サポート電話番号)
- ☐安心してお使いいただくために

・同梱物が無い場合は、すぐに生協店舗へご連絡ください。
・付属品をなくしてしまいますと有料の修理となったり、
同じものを購入するために数万円がかかる場合がございます。

メーカー保証書



△重要

このノートパソコンは4年間保証です。

同梱されている「保証書 保証期間4年(引き取り修理)」をご確認下さい。
今後パソコンの動作がおかしくなったり、パソコンが壊れて修理する際に
必要なものもありますので、付属品は全て大切に保管して下さい。

2-2. セットアップに必要な付属品を取り出して下さい



☐ACアダプター



☐電源コード

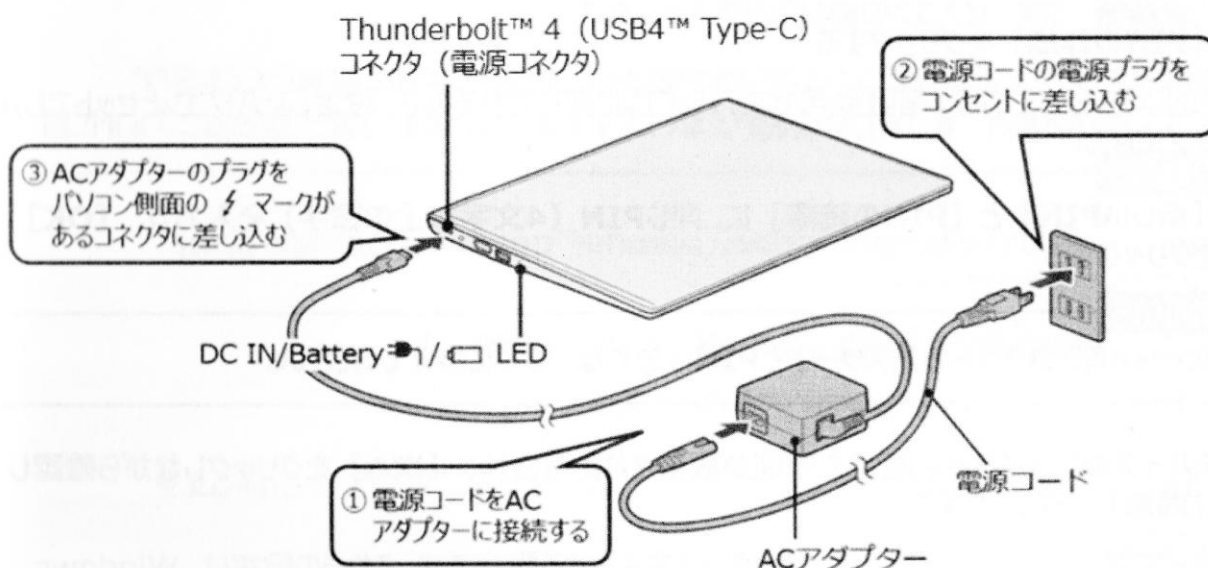
2-3. 本体にACアダプターを接続します

2 電源コードとACアダプターを接続する

電源コードとACアダプターを接続してから、パソコン本体の電源を入れてください。

次の図の①から順番に行ってください。

本製品にはThunderbolt™ 4 (USB4™ Type-C) コネクタ (電源コネクタ) が左右側面に1つずつあります。ACアダプターはどちらにでも接続できます。



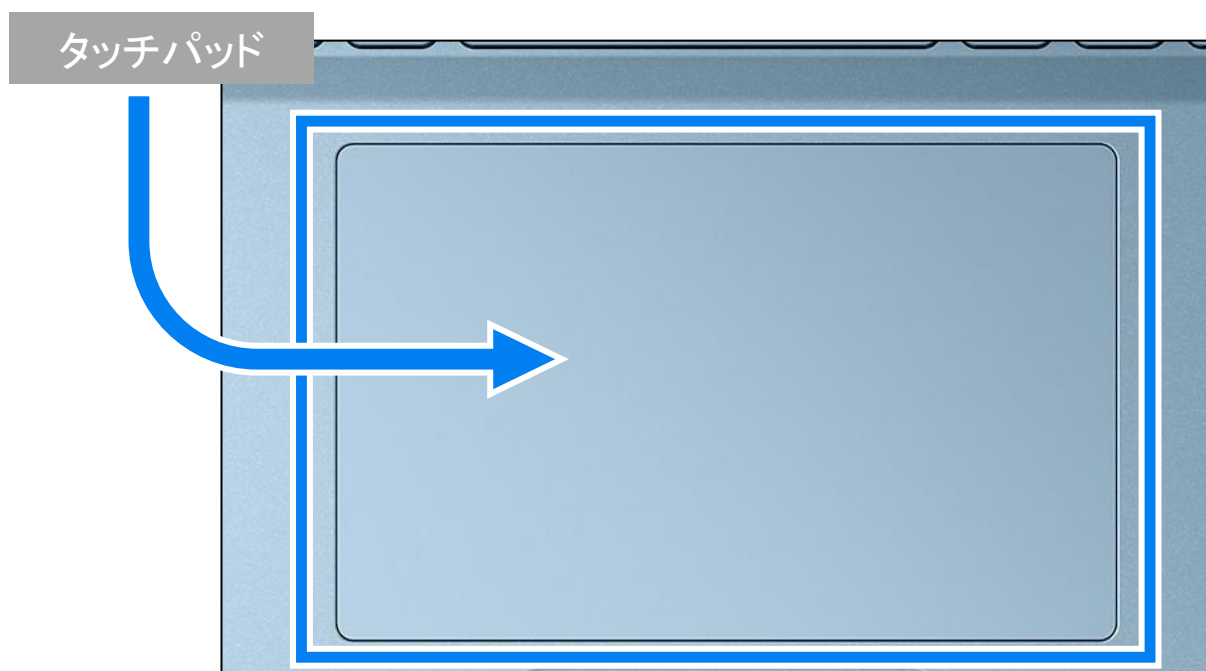
セットアップ中はACアダプターをコンセントに差し込み、電源に接続したままの状態にしてください。

2-4. セットアップの注意点

パソコンを起動し、一定時間操作を行っていないと「省エネルギー」機能により、液晶画面を自動的にオフにするように設定されています。

もし、セットアップを行っている最中に画面が表示されなくなった場合は、**タッチパッド**に触れると画面が表示されます。

クリックやキーボード操作を行ってしまいますと、セットアップ作業に影響を及ぼす可能性があります。



タッチパッドに触れても復帰しない場合には…

本体の電源ランプが消灯している場合は電源が切れているか、スリープモードという状態になっています。

その場合は、電源ボタンを操作するとスリープモードが解除されます。



画面が表示されない状態が解除できず、10分以上続く場合は電話サポートにお問い合わせください。

タッチパッド操作を覚えましょう！

ノートパソコンのタッチパッドを簡単に説明します。
タッチパッドが初めての方は一読しておいてください。



本機のタッチパッド

操作面

タッチエリアに指1本を当てて動かすと画面上のマウスカーソルを動かすことができます。



マウスカーソル

基本操作としてはマウスカーソルを動かして画面上のアイコンや文字、リンクに合わせ、**左クリックボタン**で**クリック**や**ダブルクリック**の操作を行います。

右クリック

左クリック

対象をマウスカーソルで選択した後に…

・クリック

⇒**左クリックボタン**を1回押すこと

・右クリック

⇒**右クリックボタン**を1回押すこと

・ダブルクリック

⇒**左クリックボタン**を2回続けて押すこと

・ドラッグ

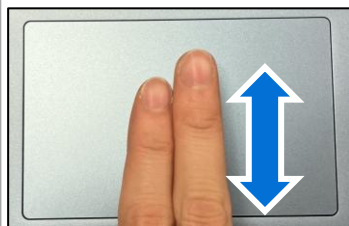
⇒**左クリックボタン**を押しながらマウスカーソルを動かすこと

・**タッチエリアのタップ**(指先で叩く)はクリックと同じ動作です。

タッチエリアを2回タップすることでダブルクリックと同じ動作をさせることが可能です。



タッチパッドでのスクロール



・指二本を添えて上下に動かすことで、画面を上下にスクロールさせることができます。

・スマートフォンの操作のようにピンチアウトやピンチインによる拡大縮小も可能です。いろいろなシーンで試してみてください。



3. Windowsの設定

初めて電源を入れたときにWindowsのセットアップが開始されます。
使用者ご本人の登録など、基本的な設定を行いましょう。

電源を入れたらセットアップ終了までACアダプターを必ず接続して、電源が切れないようにしてください。

Windowsセットアップの開始

①パソコン本体の画面を開きます。②電源スイッチを押し、指をはなします。

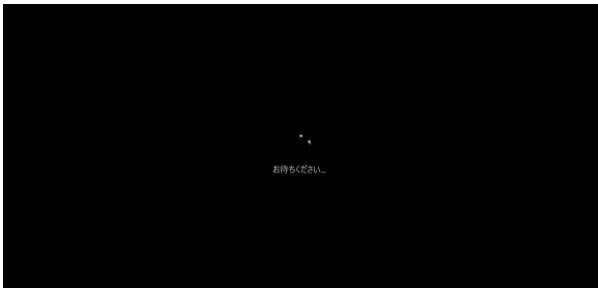
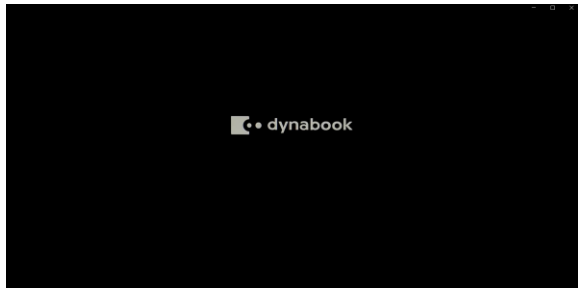


電源の状態を Power LED で確認する

電源の状態は Power LED の点灯状態で確認できます。

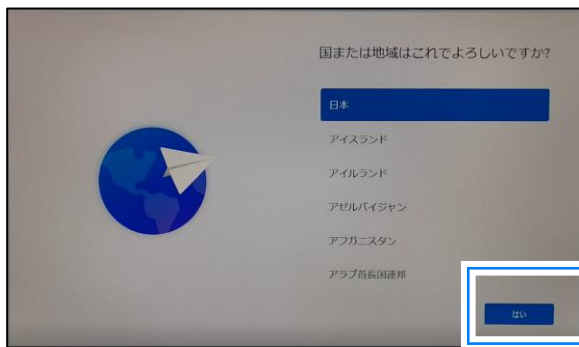
	状態	パソコン本体の状態
Power LED	白色の点灯	電源 ON
	消灯	電源 OFF、休止状態、スリープ中

③メーカーロゴが表示され、「準備しています」、「お待ちください」などの表示が自動的に切り替わります、そのまましばらくお待ちください。



Windowsセットアップ続き

④



メーカーロゴが表示された後
「お待ちください」と表示されます。

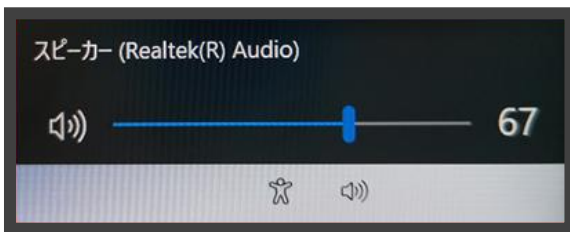
次に

「国または地域はこちらでよろしいですか？」と表示されます。

「日本」が選択されていることを確認し
（「日本」が選択されていない場合は「日本」を選択してください。）

“はい”をクリックします。

参考



※スクリーンリーダを使用してWindowsを設定するにはと音声ガイダンスが流れる場合は、右下のスピーカーアイコンをクリックし、バーをスライドすることで音量を変更することができます。

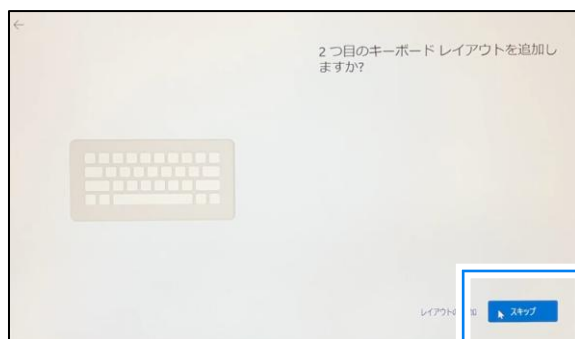
⑤



「これは正しいキーボードレイアウトまたは入力方式ですか？」と表示されます。

「Microsoft IME」が選択されていれば、
“はい”をクリックします。

⑥



「2つ目のキーボードレイアウトを追加しますか？」と表示されます。

今は、追加しませんので“スキップ”をクリックします。

文字入力を覚えましょう！

セットアップの手順で文字入力が必要です。
文字入力不安な方はご覧ください。



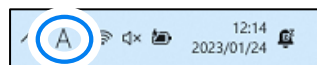
全角／半角の切り替え方法



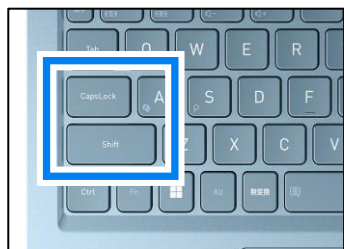
キーボード左上の“半/全 漢字”キーを押して切り替えることができます。

画面右下に表示されている言語バーを見ると、現在の入力の状態を確認できます。

「A」の場合は半角、
「あ」の場合は全角になります。



大文字と小文字の入力方法



キーボードの“Shift”キーを押したまま、文字のキーを押すと大文字で入力ができます。

また“Shift”キーを押したまま“CapsLock”を押すと常に大文字で入力ができる設定に切り替えることができます。

小文字入力に戻す場合はもう一度、“Shift”キーを押したまま“CapsLock”を押すと常に小文字が入力される設定に戻ります。

* “Caps Lock”=Capital Letters Lock＝一般的にはキャップスロックキーと呼ばれています。

“NumLock”キーについて

* 一般的にはナムロックキーと呼ばれています。



文字入力の際に“K”、“U”、“M”キーなどを押した際に数字が入力されてしまう場合は、NumLock(ニューメリックロック)が有効の状態です。

その場合は左下の“Fn”キーと上方にある“F11”キーを押すと英語入力にもどります。



キーに表記されている数字が入力される状態となります。



操作を繰り返すことで、英語入力と数字入力が切り替わります、この機能は数字入力を多く使用する場面で便利です。

Windowsセットアップ続き

ここではWi-Fiで接続することを前提に説明しております、ネットワーク接続、接続方法についてお知りになりたい場合は、後のページの『ネットワーク接続について』を参照してください。

⑦

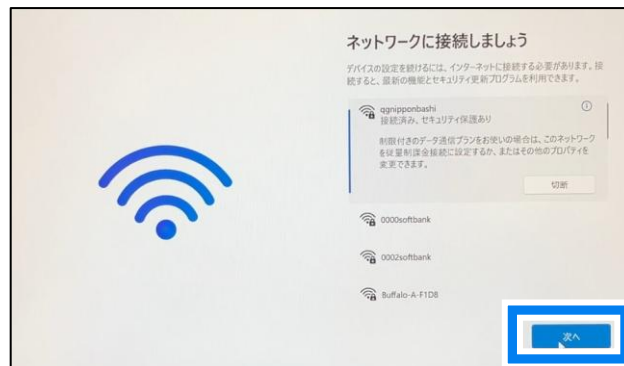


「ネットワークに接続しましょう」

接続先を選択し、“自動的に接続”をクリックしチェックを入れます、続いて、“接続”をクリック、「ネットワークセキュリティキーの入力」欄にパスワードを入力後、“次へ”をクリックします。

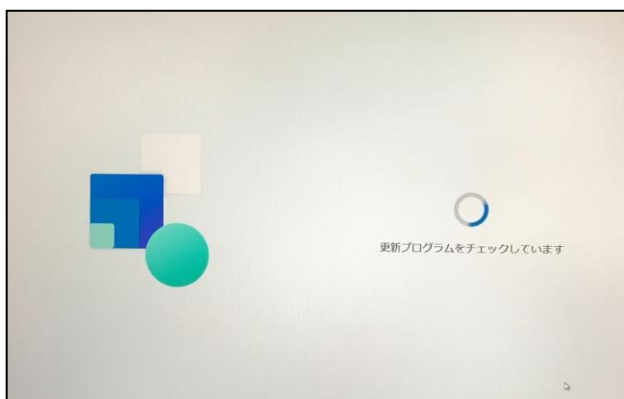
初期セットアップ中は“自動的に接続”に☒チェックを入れ、ネットワーク接続が切断されないようにしてください。

⑧



Wi-Fiに接続ができたこと(接続済みと表示)を確認後、“次へ”をクリックします。

⑨



「更新プログラムをチェックしています」と表示されましたらそのまましばらくお待ちください。

自動で再起動が行われる場合があります。

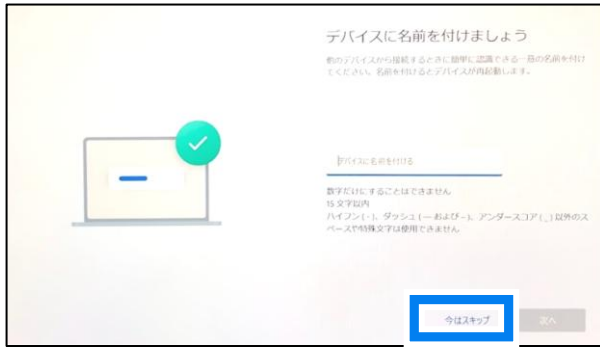
⑩



「ライセンス契約をご確認ください。」と表示されたら内容を確認し、“同意”をクリックします。

Windowsセットアップ続き

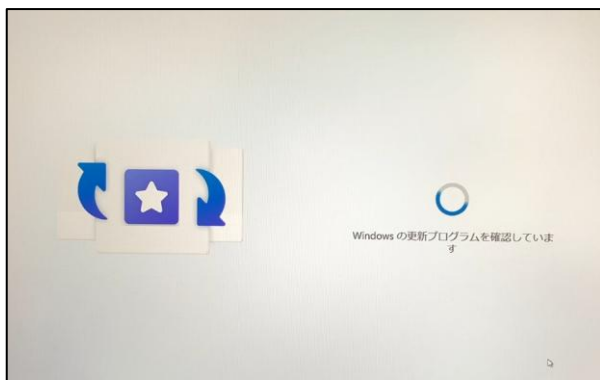
11



「デバイスに名前を付けましょう」と表示されます。

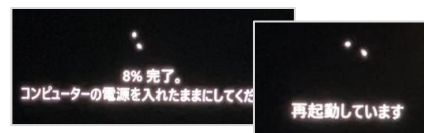
今回は“今はスキップ”をクリックします。

12



「Windowsの更新プログラムを確認しています」と表示されましたら、そのまましばらくお待ちください。

更新が必要な場合、案内表示が切り替わりながら、自動で進んでいきます、更新内容によっては30分ほど時間が掛かります。



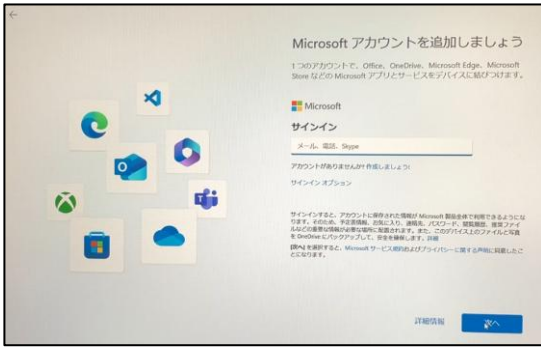
13



更新がされた場合、自動で再起動が行われます、起動後に「Microsoftエクスperiencesのロックを解除する」と表示されたら、“サインイン”をクリックします。

更新が不要な場合は、再起動はされずに上記画面が表示されます。

⑭



「Microsoftアカウントを追加しましょう」と表示されます。

ここから、
Microsoftアカウントをすでにお持ちかどうかで手順
が別れます。

【持っていない】

お持ちでない、
新しく作りたい場合は、
16ページに
お進みください。

16ページ

【持っている】

既存のアカウントを
使用される場合は、
19ページに
お進みください。

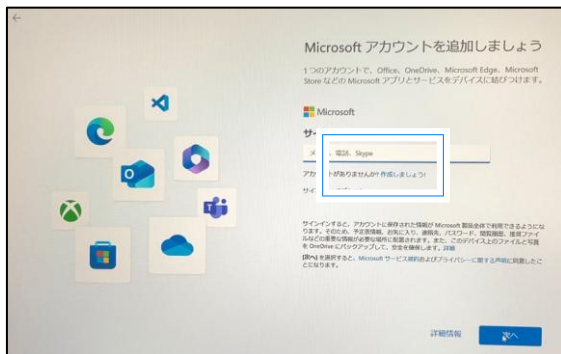
19ページ

Microsoftのアカウント新規作成

outlook.jpでの新規メールアドレス取得の方法を記載しています。
既にお持ちの方は手順⑪へお進みください。

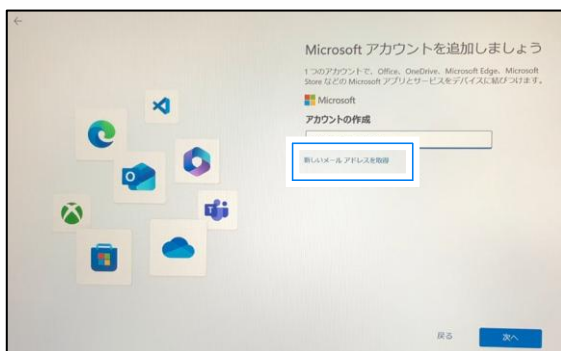
前ページの手順⑭から、新規作成を行います。

①



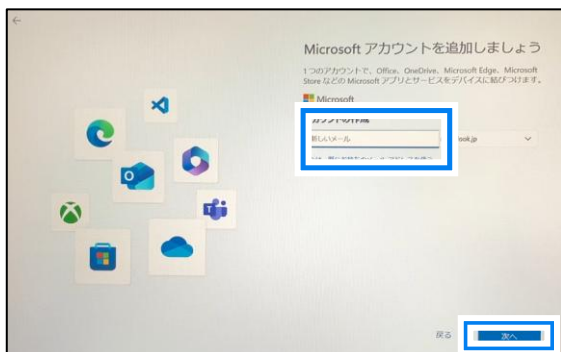
「Microsoftアカウントを追加しましょう」と表示されたら、「アカウントがありませんか？作成しましょう！」の“作成しましょう！”（青文字）をクリックします。

②



「アカウントの作成」と表示されたら、「新しいメールアドレスを取得」（青文字）をクリックします。

③



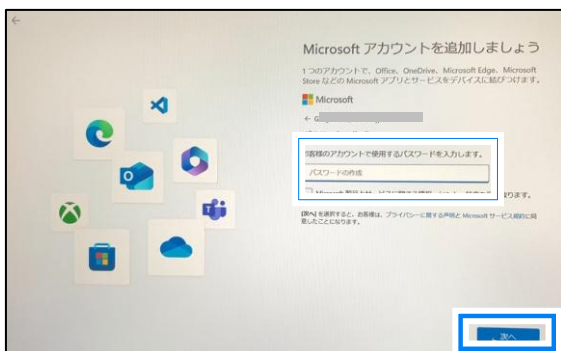
新しいメール欄をクリックし、Microsoftアカウント(メールアドレス)で使いたい文字列を入力し、“次へ”をクリックします。

半角英数字(a～z, 0～9)
ピリオド(.)、ハイフン(-)、
下線(_)が使用できます。

メモ：作成したアカウント・パスワード

@outlook.jp

④



パスワードの作成と表示されたら、任意のパスワードを入力し、“次へ”をクリックします。

半角英数字の大文字、小文字
(A～Z、a～z、0～9)および、半角
記号を組み合わせで作成して下さい。

Microsoftアカウント、パスワードは忘れないようにしてください。

ページ

16

Microsoftのアカウント新規作成続き

⑤

Microsoft アカウントを追加しましょう

1つのアカウントで、Office、OneDrive、Microsoft Edge、Microsoft Store などの Microsoft アプリとサービスをデバイスに結びつけます。

Microsoft

お名前を入力

このアプリを使用するには、もう少し詳しい情報が必要です

姓 (姓・姓中)

名 (姓・本名)

次へ

お名前の入力と表示されたら、ご自身の氏名を入力してください。

入力が出来たら、
“次へ”をクリックします。

⑥

Microsoft アカウントを追加しましょう

1つのアカウントで、Office、OneDrive、Microsoft Edge、Microsoft Store などの Microsoft アプリとサービスをデバイスに結びつけます。

Microsoft

生年月日の指定

国/地域

生年月日

年 月 日

次へ

生年月日の指定と表示されたら、「国/地域」はプルダウンで“日本”を選択します。

“生年月日”を入力して“次へ”をクリックします。

生年月日

年 月 日

生年月日の年の箇所のみ入力し、月と日は入力するかプルダウンをクリックし、選択します。

⑦

Microsoft アカウントを追加しましょう

1つのアカウントで、Office、OneDrive、Microsoft Edge、Microsoft Store などの Microsoft アプリとサービスをデバイスに結びつけます。

Microsoft

セキュリティ情報の追加

セキュリティ情報によってアカウントが保護されます。セキュリティ情報は、パスワードの記憶、アカウントのロック解除の指示、ログイン時のアカウントの検索などに使われます。スミには使われません。

連絡が取れるメールアドレスか、電話番号 (プルダウンで変更が可能)を入力します。

メールアドレス

電話番号

次へ

セキュリティ情報の追加と表示されたら、連絡が取れるメールアドレスか、電話番号 (プルダウンで変更が可能)を入力します。

メールの追加

電話番号の追加

ここでは電話番号で確認する方法を進めます。

⑧

Microsoft アカウントを追加しましょう

1つのアカウントで、Office、OneDrive、Microsoft Edge、Microsoft Store などの Microsoft アプリとサービスをデバイスに結びつけます。

Microsoft

電話番号の追加

電話番号

次へ

電話番号を入力し、“次へ”をクリックします。

これでアカウントの作成は完了です、次ページのメッセージが表示されなければ手順⑱へ進みます。

Microsoftのアカウント新規作成続き

Microsoftのアカウント追加時の注意

Microsoftアカウントを追加中に、下記のような画面が表示される場合があります。

アカウントを追加するために必要な確認手順となりますので、表示された場合は、画面の指示に従って進めてください。

状況によっては、応答が遅くなり途中の表示・切り替えが遅くなる場合があります、画面が変わるまでそのまましばらくお待ちください。

画面の指示に従って画像を選択します

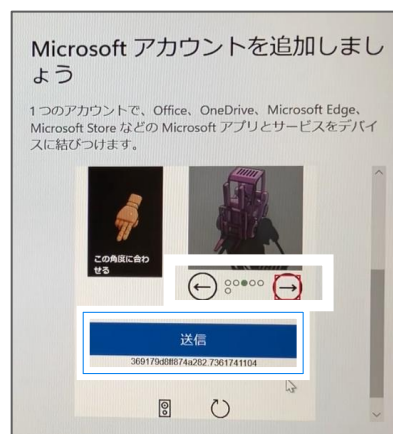
下図は一例です



下にスクロールします



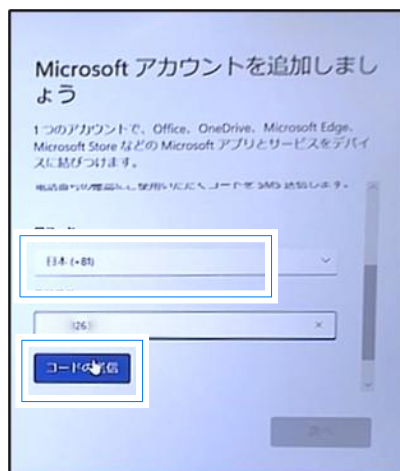
“次”をクリックします



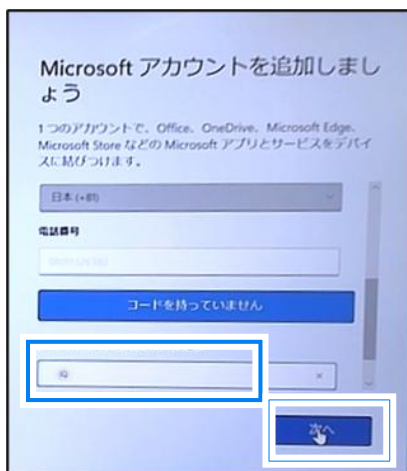
指示に従って操作・送信します

電話による認証確認

携帯電話でのショートメールメッセージの例



ショートメッセージが受信可能な携帯電話の番号を入力し、“コードの送信”をクリックします



携帯電話に送られてきたショートメッセージに記載されたアクセスコードを入力し、“次へ”をクリックします

【持っている】

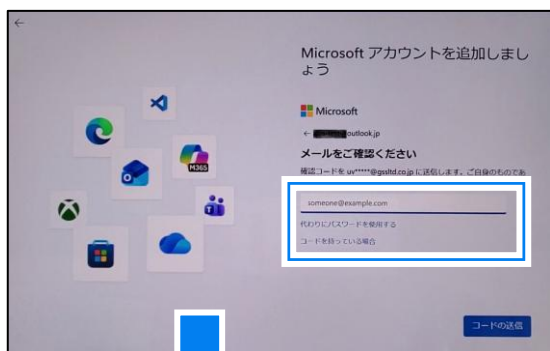
既存のMicrosoftアカウントを使用される場合は、以下のサインインをお願いいたします。

⑮



「サインイン」の欄に所有されているMicrosoftアカウントを入力し、「次へ」をクリックします。

⑯

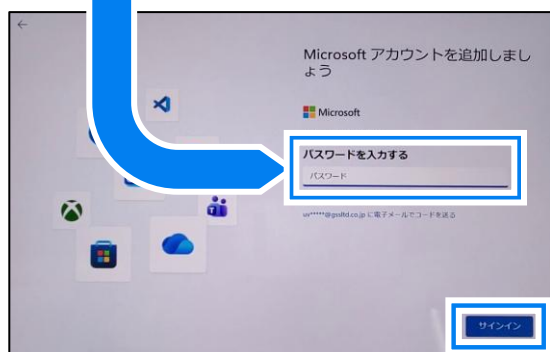


Microsoftアカウントの認証方法を

- ・確認コードをメールに送信し認証
- ・パスコードを使用しログインする
- ・コードを持っている場合

から選択し、認証を行ってください。

⑰



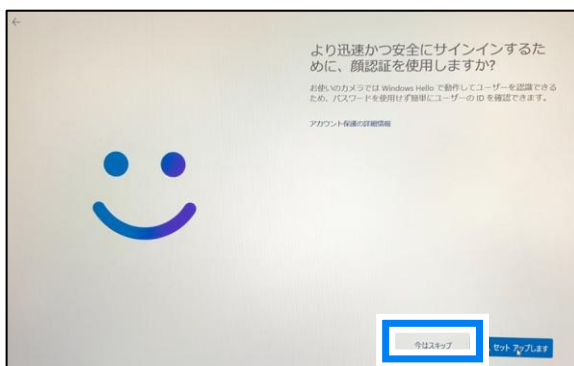
本テキストでは、【代わりにパスワードを利用する】で説明を行います。

Microsoftアカウントの“パスワード”を入力し、“サインイン”をクリックします。

手順 ⑱へ進みます。

Windowsセットアップ続き

18



「より迅速かつ安全にサインインするために、顔認証を使用しますか?」と表示されたら、「今はスキップ」をクリックします。

19

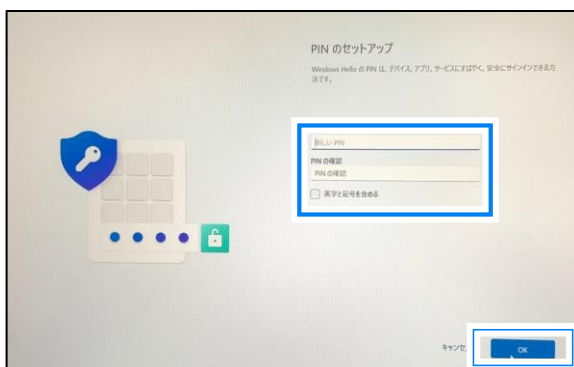


「PINの作成」と表示されたら、「PINの作成」をクリックします。

PINコードを登録します。

Windowsの起動時にパスワードの代わりに入力することでログインが可能です。

20



4文字以上で、数字のみもしくは、英字・記号を含めたコードを設定できます。確認として同じコードを2回入力し、「OK」をクリックします。

設定したPIN:

PINは忘れないようにしてください。

21



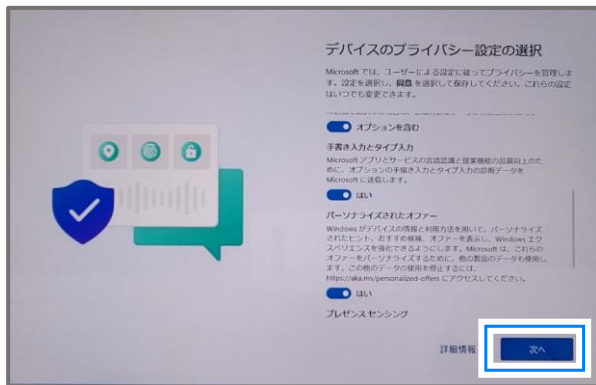
「デバイスのプライバシー設定の選択」と表示されます。

- ・位置情報
- ・デバイスの検索
- ・診断データ

“次へ”をクリックします。

Windowsセットアップ続き

②②



自動でページがスクロールされ次に
・手書き入力とタイプ入力
・パーソナライズされたオファー
・プレゼンス センシング
などが表示されます。
“次へ”をクリックします。

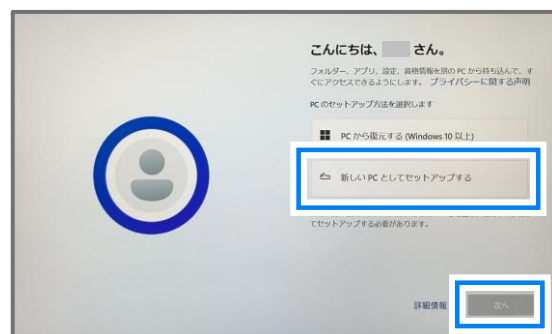
②③



自動でページがスクロールします。
一番下までスクロールが完了したら、
“同意”をクリックします。

手順②④はどちらかの画面が表示される場合があります、表示されなければ手順②⑤へ進みます。

②④



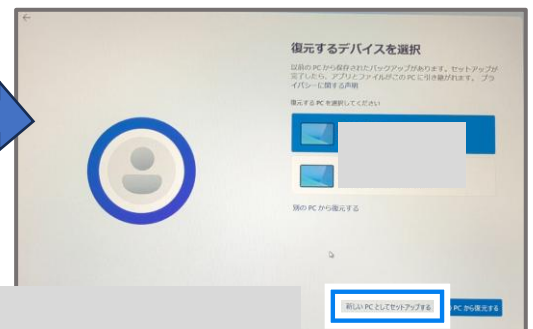
「こんにちは、〇〇さん。」と
表示されたら、

「新しいPCとしてセットアップする」を
選択し、“次へ”をクリックします。

②⑤



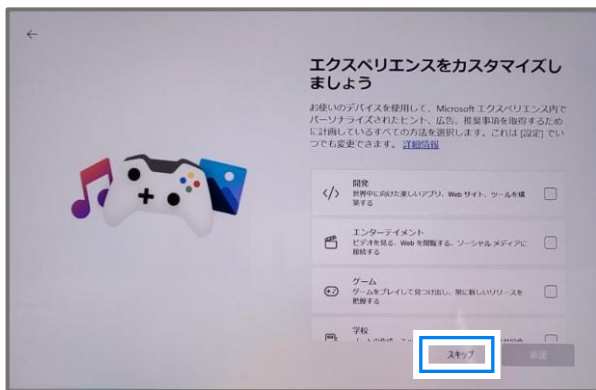
「〇〇さん、では、始めましょう！」が表
示されたら、“その他のオプション”をク
リックします。



「復元するデバイスを選択」が表示されたら
“新しいPCとしてセットアップする”をクリックします。
再度の確認も“新しいPCとしてセットアップする”をクリックします。

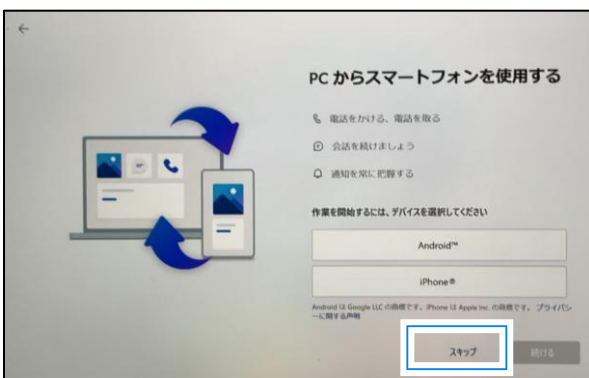
Windowsセットアップ続き

②5



「エクスペリエンスをカスタマイズしましょう」と表示されたら、「スキップ」をクリックします。

②6



「PCからスマートフォンを使用する」と表示されたら、「スキップ」をクリックします。
※機種によっては画面が異なる場合があります。

自動で再起動した場合は、作成したPINコードを使い、ログインしてください

②7



「常に最近の閲覧データにアクセスできます」と表示されたら「今はしない」をクリックします。
(表示されない場合は次への画面となります。)

②8



「Microsoft365を無料で使用できることをご存知でしたか?」と表示された場合は、「次へ」をクリックします。
表示されない場合は、次の手順の画面が表示されます。

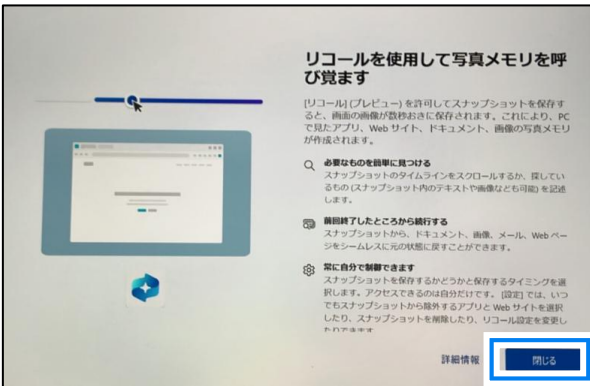
Windowsセットアップ続き

29



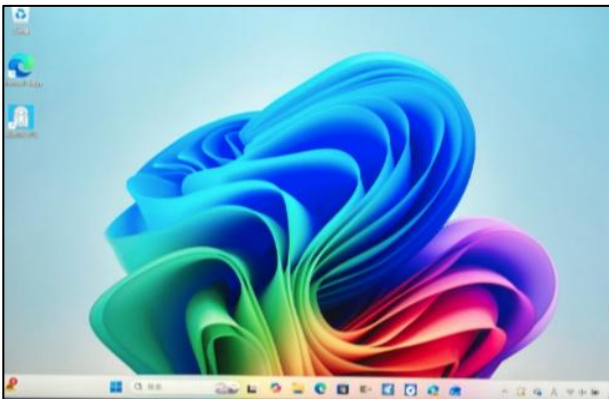
「月額たった ¥1,300 で Game Pass Premium に参加しよう」と表示されたら“スキップ”をクリックします。

30



【表示された場合】
「リコールを使用して写真メモリを呼び覚ます」と表示されたら“閉じる”をクリックします。
* 表示されない場合も問題ございません。

31



デスクトップ画面が表示されます。

セットアップは以上で完了です。
続けてデバイスの暗号化機能の確認を行います。

4. デバイスの暗号化(BitLocker)について

Windowsのセキュリティ機能であるデバイスの暗号化(BitLocker)については、パソコンに記録された情報を守るための機能ですが、正しく認識をされずに使用された場合にパソコンが起動できなくなるリスクがあります。

デバイスの暗号化(BitLocker)機能とは

パソコンの紛失や盗難をされてしまった場合に、パソコン内に記録されている情報を他者から見ることをできないように暗号化をする機能です。この機能には利点と不利点(メリット・デメリット)がありますので、理解したうえで利用してください。

利点・メリット

パソコンに個人情報や重要な情報が記録されている場合、パスワードや解除キーがわからなければ不正に情報を見られてしまう事態を防ぐことができます。

不利点・デメリット

- ・使用中に暗号化の動作が行われるため、パソコンに負荷がかかった状態になります、近年のパソコンでは気にするほどではないですが、通常動作に加えて暗号化の動作も行われていることを知っておいてください。
- ・修理による部品交換などで、機器の構成が変わった際にパソコンが起動できなくなる場合があります、パソコンは治ったけれども使用できない状態になってしまいます。
これはWindowsが別のパソコンに記憶装置が接続されたと認識し、保護機能を有効にする事に起因します。

デバイスの暗号化を使用するかどうか迷われたら

大切な情報を守るための機能ですので、万が一のためにご使用することをお勧めしております。

△重要

次のページで暗号化の状態を確認していただきまして、機能を使用する場合とすでにオンになっている場合は暗号化(BitLocker)回復キーのバックアップを必ず保管してください。

デバイスの暗号化 (BitLocker) 機能をオンにする

下記の手順で暗号化の状態を確認し、オフの場合は機能を有効にします。

有効化するにはMicrosoftアカウントが必要です。

すでにMicrosoftアカウントをパソコンに登録されていた場合は、暗号化機能が自動的にオンの状態になっている場合があります。

画像は一例です、メーカーや機種により表示が異なる場合があります。

①

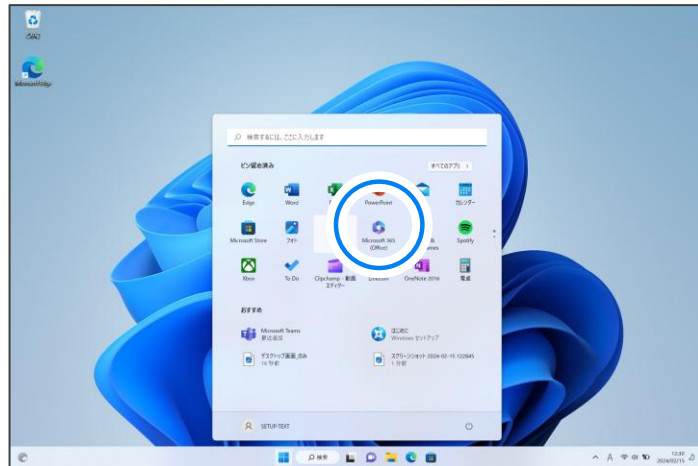


“スタートボタン”をクリックします。



←“スタートボタン”

②



“設定”をクリックします。



←“設定”アイコン

③



“プライバシーとセキュリティ”をクリックします。

“デバイスの暗号化”が表示されますのでクリックします。

デバイスの暗号化 (BitLocker) 機能をオンにする続き

④



暗号化の状態を確認します。

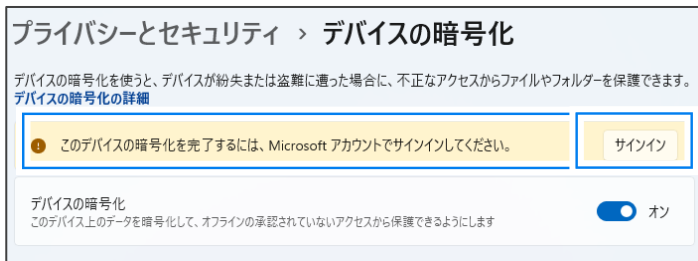
- ・  オンの状態
- ・  オフの状態

⑤



オフになっていた場合は、“オフ”をクリックし、“オン”の状態にします。

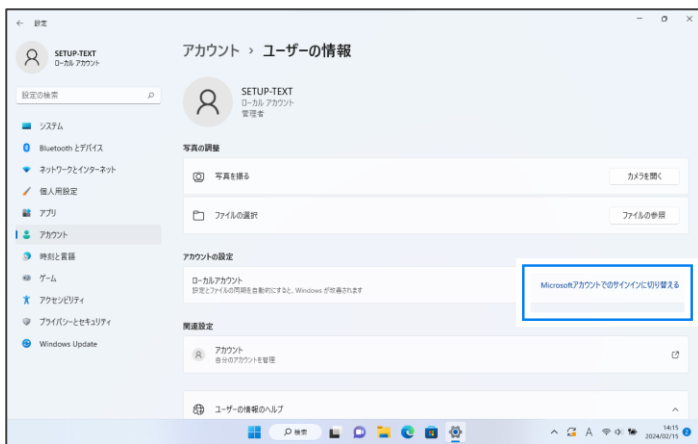
⑥



「このデバイスの暗号化を完了するには、Microsoft アカウントでサインインしてください。」と表示された場合は、“サインイン”をクリックします。

表示されない、またはすでにオンの場合は手順⑬まで進みます。

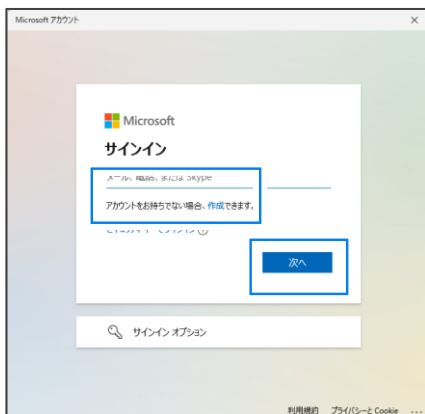
⑦



設定のアカウント、ユーザーの情報が自動で表示されます。

「Microsoftアカウントでのサインインに切り替える」をクリックします。

⑧



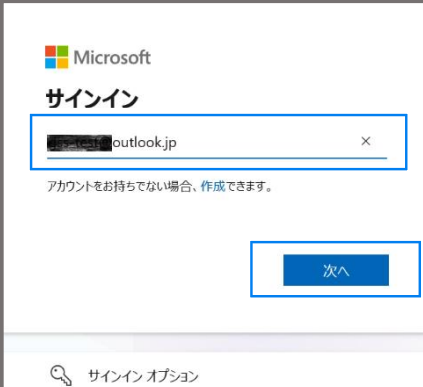
「サインイン」のウィンドウが表示されます。

次のページでMicrosoftアカウントの有無により、手順が別れます。

デバイスの暗号化 (BitLocker) 機能をオンにする続き

- ・Microsoftアカウントをお持ちの方は、手順⑨へ進みます。
- ・Microsoftアカウントをお持ちでない方は新規作成を行ってください、青文字の「作成」をクリックし、画面表示に従ってください。作成後は手順⑫からお進めください。

⑨



Microsoft
サインイン

outlook.jp

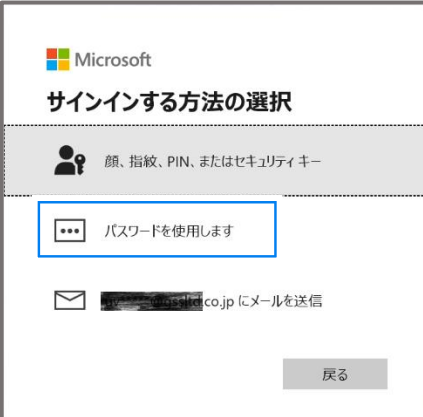
アカウントをお持ちでない場合、作成できます。

次へ

サインイン オプション

Microsoftアカウントを入力し、“次へ”をクリックします。

⑩



Microsoft
サインインする方法の選択

顔、指紋、PIN、またはセキュリティキー

パスワードを使用します

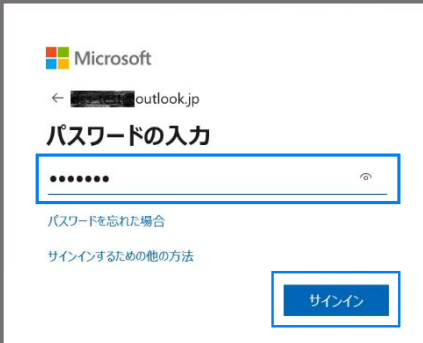
outlook.jp にメールを送信

戻る

サインインする方法の選択が表示されたら、顔、指紋、PIN、またはセキュリティキーパスワードを使用します
〇〇@××.co.jp にメールを送信
のいずれかを選択します。

本テキストでは“パスワードを使用します”を選択しています。

⑪



Microsoft
 outlook.jp

パスワードの入力

パスワードを忘れた場合

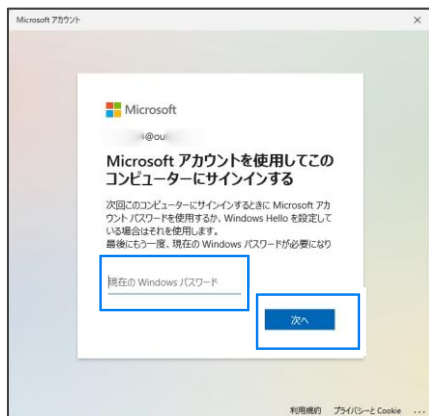
サインインするための他の方法

サインイン

Microsoftアカウントのパスワードを入力し、“サインイン”をクリックします。

デバイスの暗号化 (BitLocker) 機能をオンにする続き

⑫



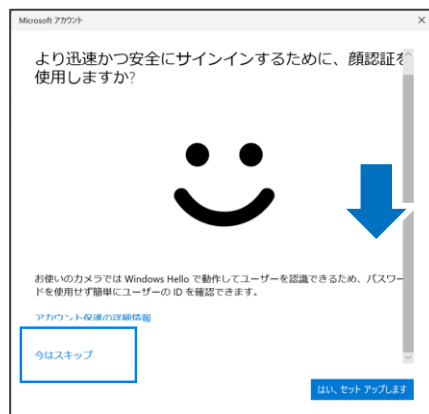
Windowsに設定したパスワードを入力し、“次へ”をクリックします。

⑬



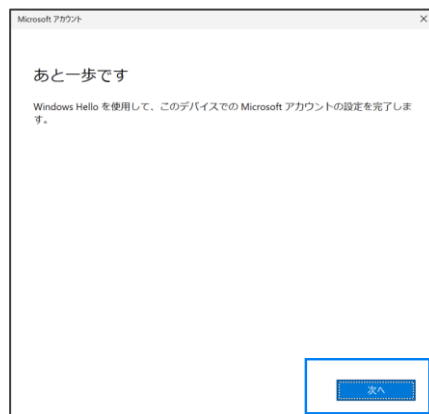
パソコンの機種によっては指紋認証の設定を促す画面が表示されます。

あとで設定する場合は下にスクロールし、“今はスキップ”をクリックします。



顔認証の設定が表示された場合もあとで設定する場合にも下にスクロールし、“今はスキップ”をクリックします。

⑭

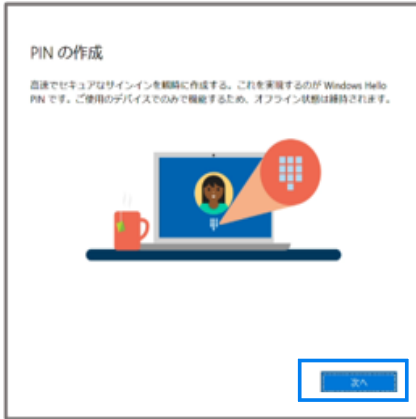


「あと一歩です」が表示されたら“次へ”をクリックします。

表示されない場合は次の手順に進みます。(表示がされない場合も問題はございません)

デバイスの暗号化 (BitLocker) 機能をオンにする続き

⑮



「PINの作成」が表示されたら“次へ”をクリックします。

既に設定されていて表示されない場合は、ユーザー確認画面が表示されますので、設定済みのPINを入力し⑰へお進み下さい。

⑯



PINコードを登録します。
Windowsの起動時にパスワードの代わりに入力することでログインが可能です。
4文字以上で、数字のみもしくは、英字・記号を含めたコードを設定できます。
確認として同じコードを2回入力し、“OK”をクリックします。

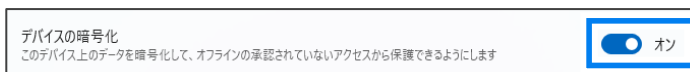
⑰



ユーザーの情報に戻りますので、“プライバシーとセキュリティ”をクリックします。

“デバイスの暗号化”の表示をクリックします。

⑱

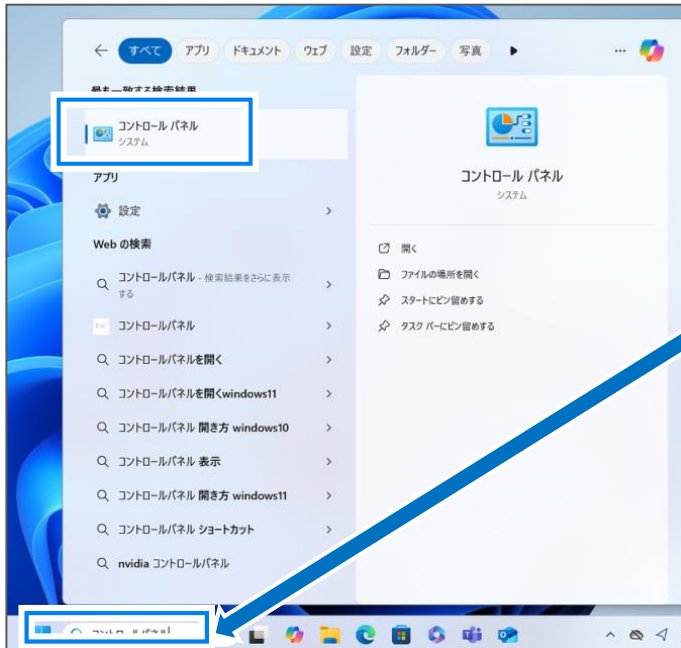


「デバイスの暗号化」がオンになっていることを確認します。
次のページから、暗号化状態でロックされてしまった場合の回復キーについて確認を行います。

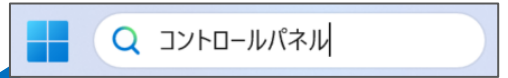
暗号化処理中でもパソコンはそのまま使用できます。

デバイスの暗号化 (BitLocker) 回復キーのバックアップ

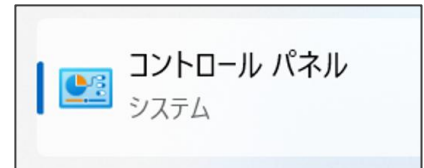
19



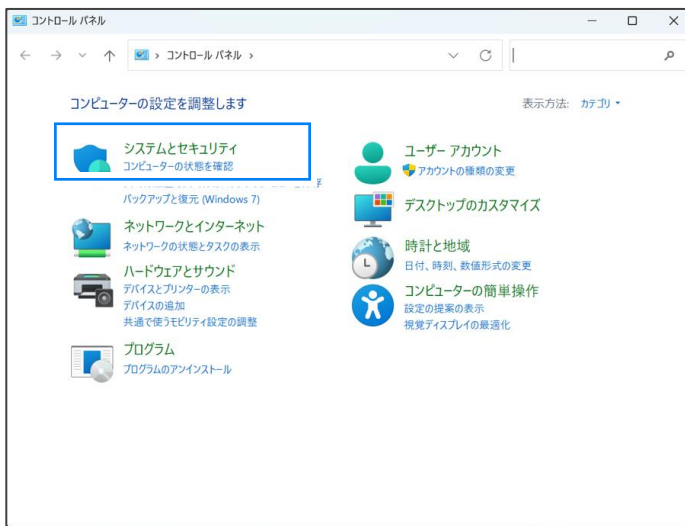
Windowsの検索ボックスに入力を行います、ボックスが開いていない場合は虫眼鏡の検索アイコンをクリックします。



「コントロールパネル」と入力します、画面の上の方に下図の表示がされますので、クリックします。



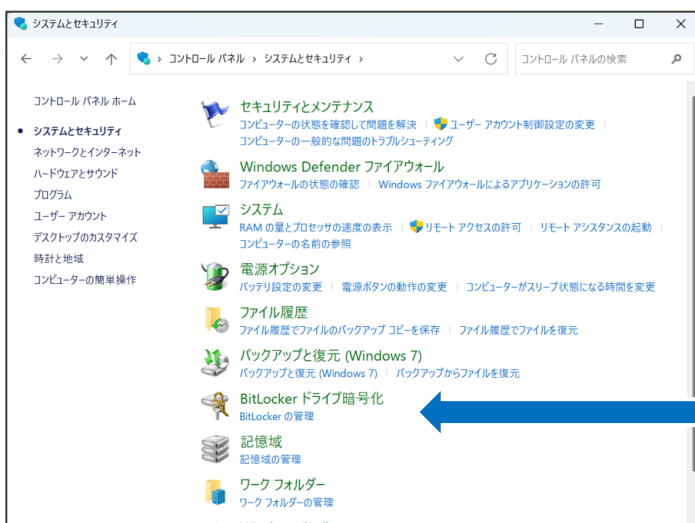
20



コントロールパネルのウィンドウが開きます。

「システムとセキュリティ」をクリックして開きます。

21



下記の表示部分をクリックします。機種により、2種類がありますので、表示されたアイコンをクリックしてください。

1



BitLocker ドライブ暗号化
BitLocker の管理

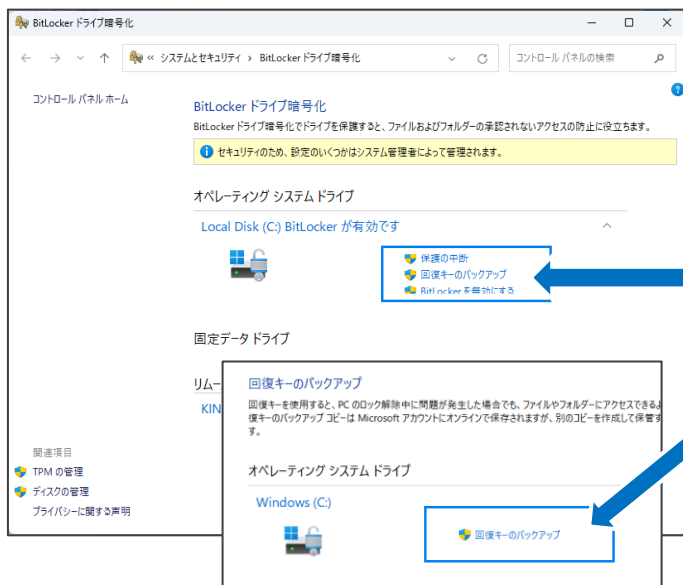
2




デバイスの暗号化
回復キーのバックアップ

デバイスの暗号化 (BitLocker) 回復キーのバックアップ

22



機種の違いにより、左図の表示が異なりますが、どちらの場合も「回復キーのバックアップ」をクリックしてください。

 回復キーのバックアップ

23

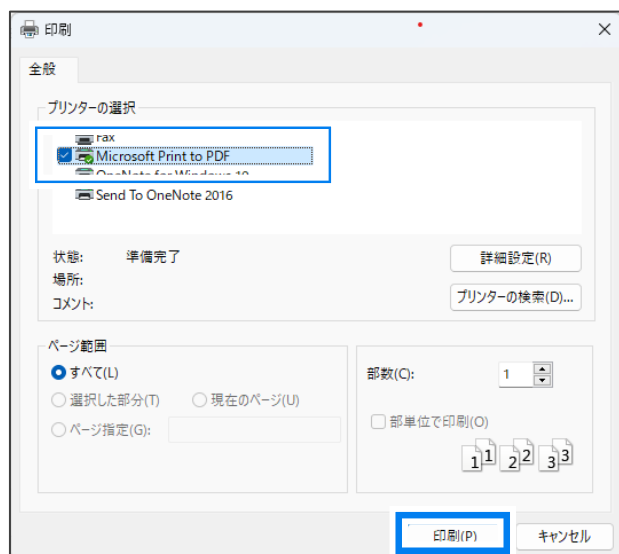


回復キーのバックアップ方法を選択する画面が表示されます。

「→回復キーを印刷する(P)」をクリックします。

プリンターをお持ちでない、また、接続をしていない場合でも問題はございません。

24

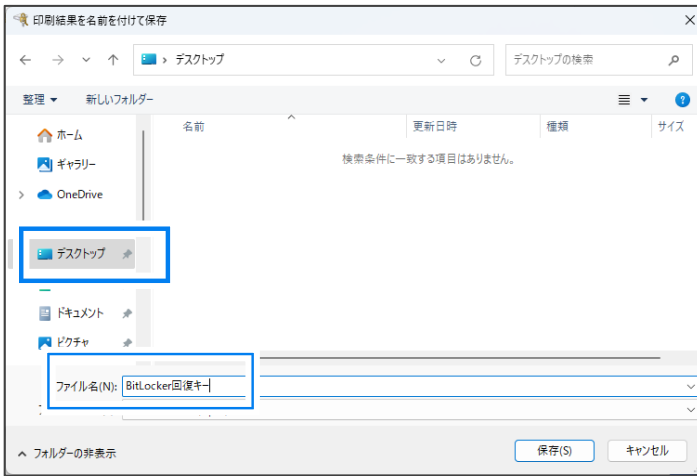


「印刷」画面が表示されますので、「Microsoft Print to PDF」をクリック選択し、「印刷(P)」をクリックします。

“Microsoft Print to PDF”が表示されない場合や、プリンターを既に使用されている場合は、直接紙に印刷していただく結構です。

デバイスの暗号化(BitLocker)回復キーのバックアップ続き

②5



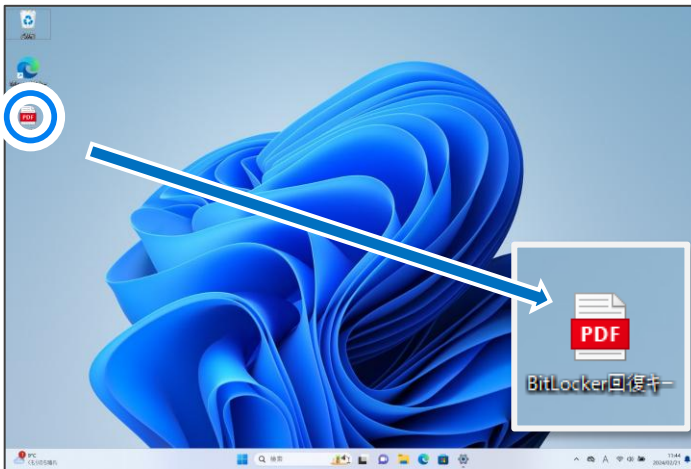
「印刷結果を名前を付けて保存」が表示されますので、ファイル名を入力、保存先を指定して、“保存(S)”をクリックします。

ここでは、保存先を“デスクトップ”、ファイル名を「BitLocker回復キー」としています。

バックアップ方法指定の画面は、“完了”をクリックして閉じてください。



②6



保存先である“デスクトップ”にファイルが作成されていることが確認できます。
作成されました、「BitLocker回復キー」ファイルをダブルクリックし、ファイルを開きます。

Microsoft Edgeが起動します、初回起動の場合は以下のような6つの確認画面が表示されますので、内容に合わせて下記の選択にて進めます。

・「Microsoft Edgeへようこそ。Windowsで最適に動作するブラウザです。」は、

- ① “ユーザーデータを使用せずに開始”
- ① “確認して続ける” のいずれかをクリックします。

・「閲覧データを最新に保つ」は、

- ② “確認して続ける” をクリックします。

・「GoogleのデータとサービスをEdgeにインポートする」は、

- ③ “Google データなしで続行する” をクリックします。

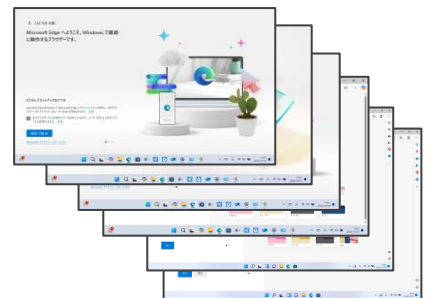
②7

・「Googleからの閲覧データのインポートをお手伝いします」は、

- ③ “このデータを使用せずに続行する” をクリックします。

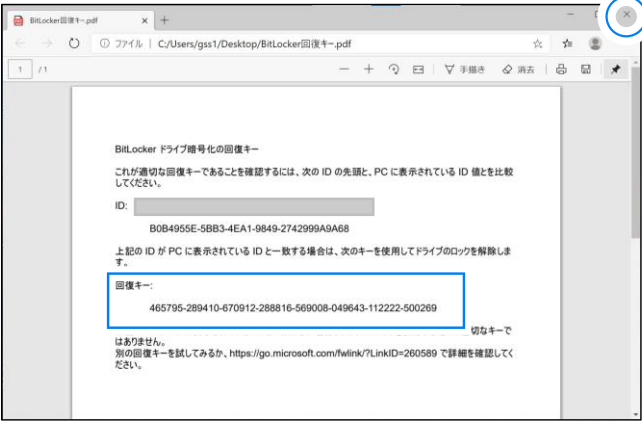
・「Microsoft のエクスペリエンスをより便利にするためにご協力ください」は、

- ④ “確認して閲覧を開始する” をクリックします。



デバイスの暗号化 (BitLocker) 回復キーのバックアップ続き

28



Microsoft Edgeが起動し、回復キーが表示されます、画面を写真撮影、印刷をして記録されることをお勧めいたします。
下記メモ欄もよろしければご使用ください。
ウィンドウは右上の“X”をクリックして画面を閉じます。
6桁ずつ、全48文字で構成されています。
次のページは参考です、暗号化をオフにする方法です。

回復キー手書き記録欄

6桁	6桁	6桁	6桁
6	12	18	24
6桁	6桁	6桁	6桁
30	36	42	48

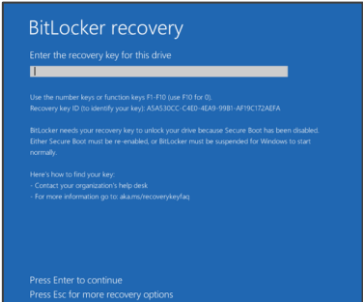
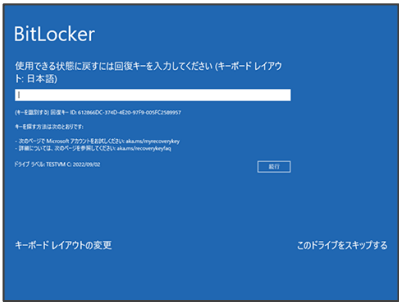
暗号化のオフ、オンを行いますと回復キーが変更されます。
その都度、バックアップを実施してください。

参考

回復キーはMicrosoftアカウント情報に保存されています。
以下のURLよりご確認が可能です。

<https://account.microsoft.com/devices/recoverykey>

下の画面はセキュリティ機能が動作し、パソコンがロックされた状態です。
この場合に回復キーを入力し、ロック状態の解除を行います。



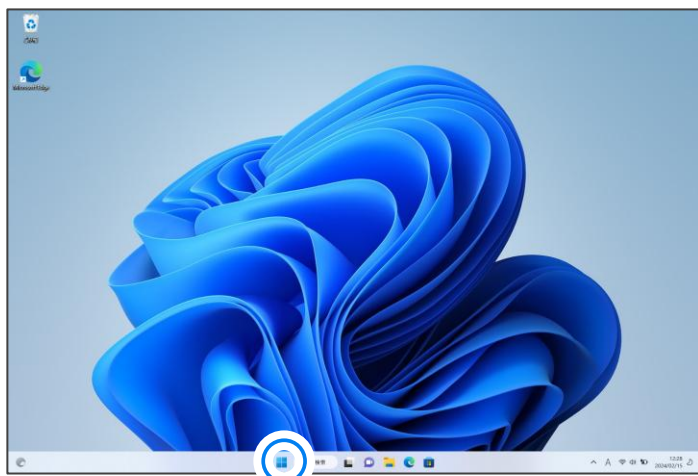
デバイスの暗号化 (BitLocker) 機能をオフにする

暗号化機能が不要と判断された場合や、修理が必要な際にあらかじめ暗号化を解除する場合にご参照ください。

オンのまま使用する場合、次の「Windows Updateについて」へお進みください。

画像は一例です、メーカーや機種により表示が異なる場合があります、

①

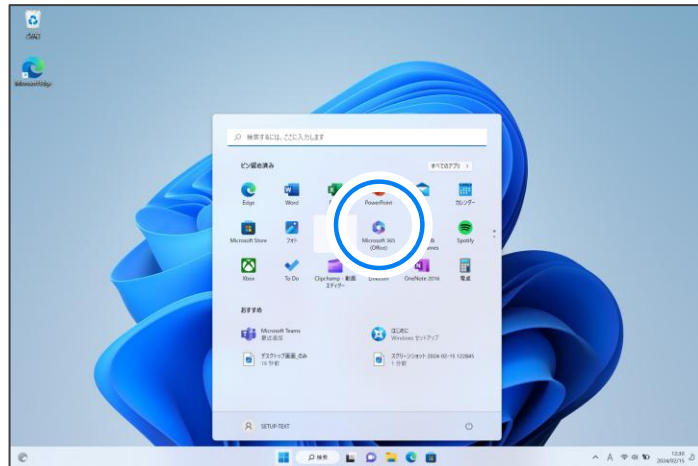


“スタートボタン”をクリックします。



←“スタートボタン”

②



“設定”をクリックします。



←“設定”アイコン

③



“プライバシーとセキュリティ”をクリックします。

“デバイスの暗号化”が表示されますのでクリックします。

デバイスの暗号化 (BitLocker) 機能をオフにする続き

④



暗号化の状態を確認します。

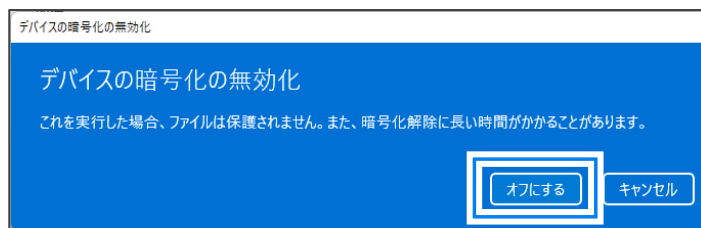
- ・  オンの状態
- ・  オフの状態

⑤



“オン”をクリックし、“オフ”の状態にします。

⑥



「デバイスの暗号化の無効化」のウィンドウが表示された場合は、

“オフにする”をクリックします。



「暗号化解除が進行中です。
デバイスを引き続き使用できます。」と表示されたのちに、
オフの状態になります。

⑦



再度、機能をオンにする場合は回復キーのバックアップも忘れずに行ってください。

5. Windows Updateについて

外部からのネットワーク攻撃に対して保護機能を向上させたり、不具合を改善する機能がWindows Updateです。

Windows Updateを行わないとトラブルの原因になったり、コンピュータウイルスに感染してしまう可能性があります。

パソコンを安心して利用するために常に最新状態にアップデートしましょう。

Windows Updateを動作させるには

Windows Updateの機能は標準でオンの状態です。

パソコンをインターネットに接続することで自動的に更新が行われます。

Windows11の不具合やセキュリティ上の問題が発見されたり、追加変更が発生した場合、修正する更新プログラムがインターネット上に公開されます。

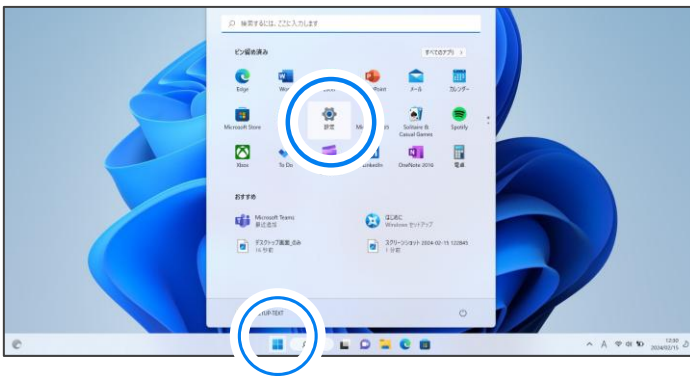
この公開情報を確認し、自動的にダウンロードとインストールを行います。

更新の種類によっては、パソコンの再起動が必要になる場合があります。

最新の状態に更新するには

画面は一例です

①



“スタートボタン”をクリックします。



←“スタートボタン”

“設定”をクリックします。



←“設定”アイコン

②



“Windows Update”をクリックします。

「ダウンロード可能な更新プログラム」が表示されている場合は、“すべてダウンロードしてインストール”をクリックします。

③

Windows Update

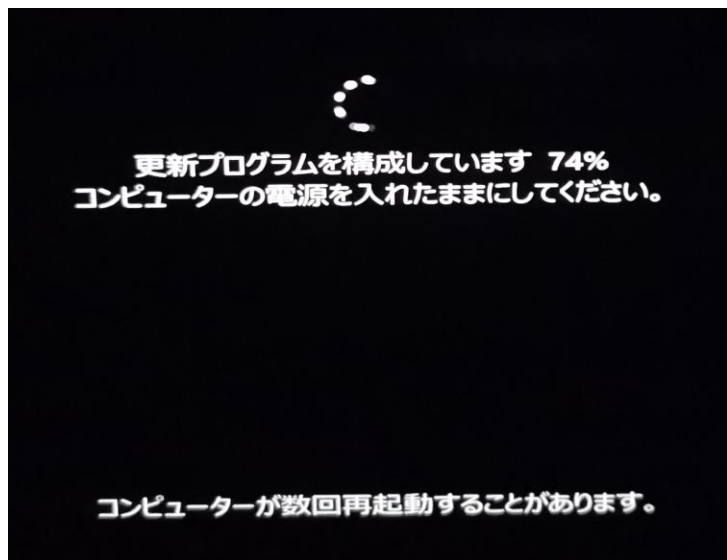


最新の状態で
最終チェック日時: 今日、11:31

「最新の状態で」と表示されていれば完了です。

Windows Updateについて続き

Windows Update更新中の注意



・Windows Updateのダウンロード中やインストール中、パソコンの使用は可能ですが、動作(反応)が遅くなる場合があります。異常ではございませんので、様子を見てそのままご使用ください。

・Windows Updateを行った後、Windowsのシャットダウンが左のような画面になり、通常以上の時間(10分～20分以上)かかる場合があります。これはパソコンがUpdate後の再設定をおこなっていますのでその際は電源を無理やり切らずに自然にシャットダウンされるのを待ってください。

異常状態が長く続くとき(30分以上画面が変わらない等)、最新状態に更新をしても動作が遅い場合は、電話サポートにお問い合わせください。

参考

Windows Updateとはインターネットを通じてWindowsやOffice製品(WordやExcelなど)の発売後に見つかった問題を修正したり、新しい機能を追加する作業のことです。

他にもウイルスが忍び込むセキュリティホール(セキュリティの欠陥)をなくし、悪質な攻撃に負けないように、強化することもWindows Updateでは行われます。

通常はWindows Updateの自動更新が有効になっているので、定期的に更新されるようになっています。とても便利な機能ですが、更新中はパソコンが少々遅くなったり、パソコンの再起動が必要な場合もあり、面倒に感じることもあります。

しかし、Updateをせずに使い続けると、不具合が修正されなかったり、セキュリティの欠陥が残ってしまうなど、とても危険です。

セットアップの完了

以上でセットアップは完了です。お疲れさまでした。
パソコンの電源を切る方法について説明します。

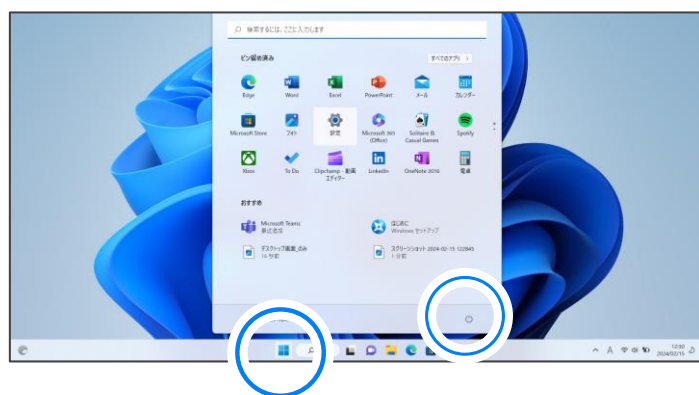
シャットダウン(電源を切る)方法について

画面は一例です

パソコンは現在のメモリー上の作業内容を保存してから電源を切る必要があります。

正しく電源が切られなかった場合、次回の立ち上げ時などに問題が発生したり、その他の不具合に発展する可能性があります。

①



“スタートボタン”をクリックします。



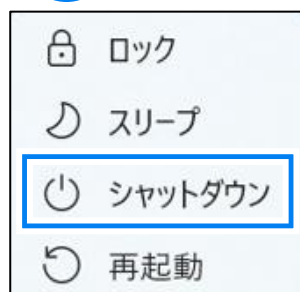
←“スタートボタン”

“電源”をクリックします。

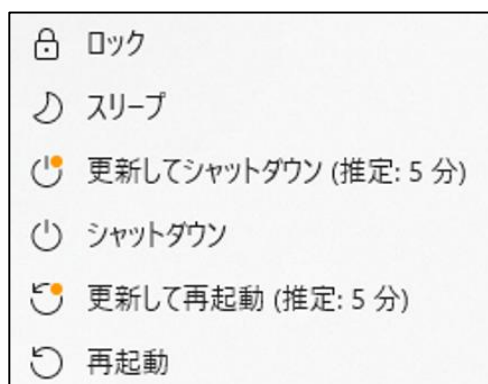


←“電源”アイコン

②

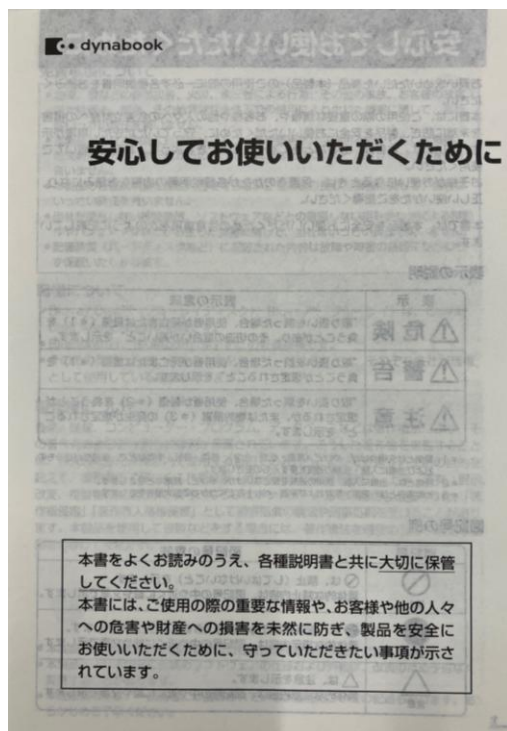


オプションが表示されますので、“シャットダウンを”クリックします。
数秒後に電源が切れます。



Windows Updateの更新で、再起動が必要になる場合はアイコンにオレンジのマークが表示されます。
更新を選択すると電源が切れるまでに時間がかかる場合があります。急いで電源を切りたい場合はオレンジマークの無い方をクリックしてください。

付属の説明書とガイドを確認しましょう。



「COCORO MEMBERS」ココロ メンバーズへのご登録(お客様登録)は任意で行ってください。

<https://cocoromembers.jp.sharp>



次のページからはWindowsの操作、インターネットと接続方法と活用編です。
お時間があるときにご確認をお願いいたします。

6. Windows11の主な操作方法について

説明中の画像は一例です、メーカーや機種により表示が異なる場合があります。

デスクトップ画面とスタートメニュー

画面は一例です

デスクトップ画面

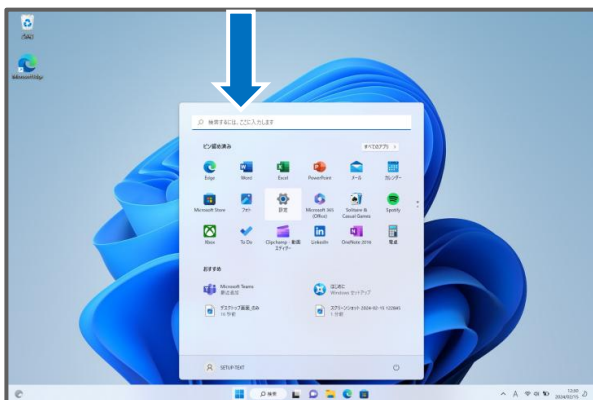
①



起動後、ログイン画面でパスワードを入力しサインインすると、デスクトップ画面が表示されます。
(起動時にロック画面が表示されログイン画面にならないときは画面を一度クリックしてください。)


デスクトップ画面の下部中央にある“スタートボタン”をクリックするとスタートメニューを表示します。

②



このスタートメニューから起動したいアプリケーションを選びクリックして実行します。

参考

キーボードのウィンドウズキー“”を押すことで、スタートメニューの表示／非表示をさせることができます。

③



スタートメニュー上部には「ピン留め済み」のアプリのアイコンが表示されます。右側にある丸をクリックする事で表示ページを切り替えることができます。

← ページの切り替え

「おすすめ」は直近でよく使用されているアプリが表示されます。

スタートメニューの操作方法

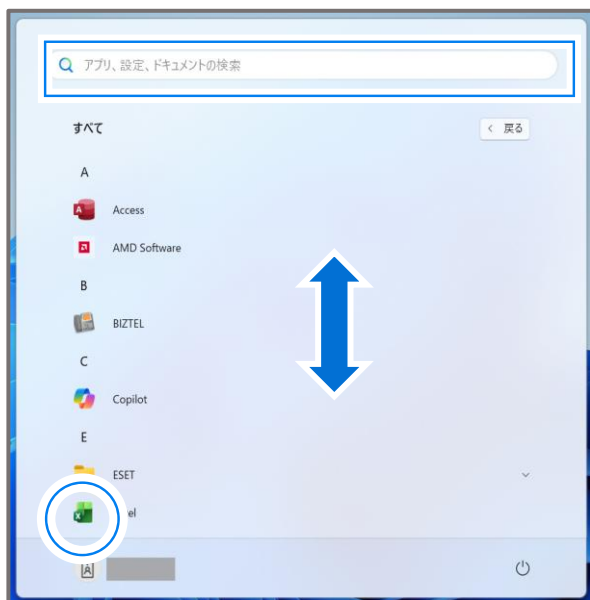
④



「すべて」をクリックするとパソコンにインストールされているアプリケーションの一覧が表示されます。

スタートメニューに表示されているアイコンをクリックするとアプリケーションが起動します。

⑤



「すべて」からアプリケーションを探す場合は、画面をスクロールさせるか上の検索枠にアプリの名前を入力し、目的のアプリケーションを表示させてからクリックします。

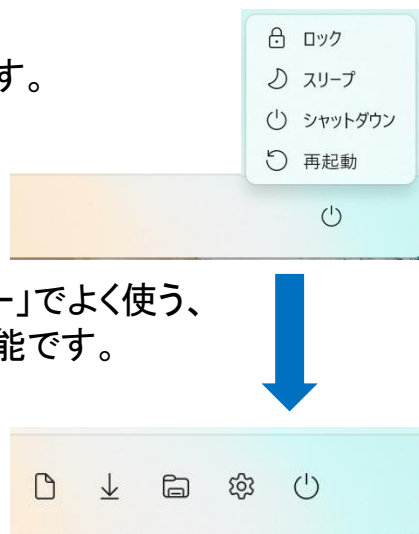
名前は入力している途中でも候補が表示されますので、頭の数文字を入力すれば目的のアプリケーションが表示されます。

参考

スタートメニューの下部分に電源アイコンがあります。再起動や電源を切る操作ができますが、設定でアイコン(アクセス先)を追加することができます。

「設定」⇒「個人用設定」⇒「スタート」⇒「フォルダー」でよく使う、アクセス先を“オン”にすることでカスタマイズが可能です。

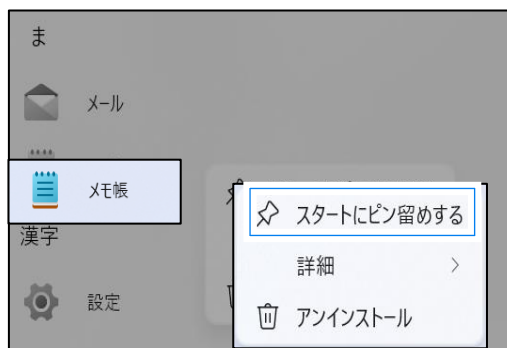
ドキュメント、ダウンロード、エクスプローラー、設定を追加した例です、よく使う項目を簡単に開けるようになります。



スタートメニューのカスタマイズ

スタートメニューによく使用するアプリケーションを登録することができます。

①



スタートメニューで目的のアプリケーションを表示させます、ここでは「メモ帳」を登録してみます。

メモ帳を見つけたら、アイコンを右クリックし、“スタートにピン留めする”をクリックします。

②



メモ帳が「ピン留め済み」に登録されました。

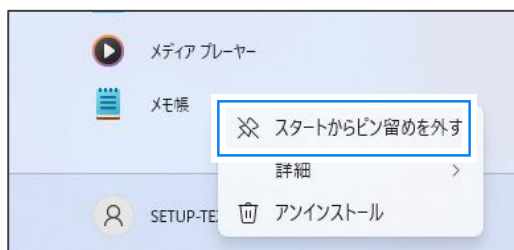
ピン留めの位置はアイコンをクリックしたままタッチパッドを操作(ドラッグ)することで、位置の変更が可能です。

③



よく使うアプリケーションをお好みの位置に登録することが可能です。

④

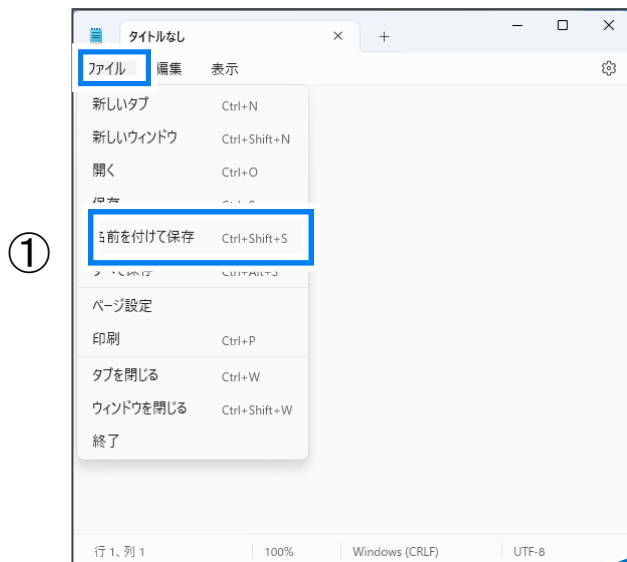


ピン留めしたアプリケーションは、クリックすることで立ち上げることが可能です。

ピン留めしたアプリケーションを削除したい場合は、アイコンを右クリックして、“スタートからピン留めを外す”をクリックします。アプリケーションそのものが消えてしまうわけではなく、ピン留めから消えるだけです。

アプリケーションで作成したファイルの保存と終了

メモ帳アプリケーションでのファイル保存と終了の例です。



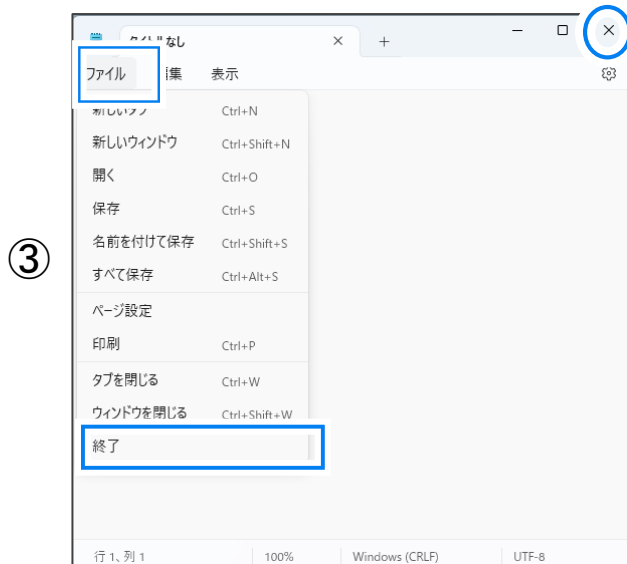
新しく作った書類を保存する場合は、“ファイル”をクリックするとメニューが表示されますので、“名前を付けて保存”をクリックします。

ここに保存先名が表示されています。



保存先を指定するウィンドウが表示されますので、保存用の名前を入力し“保存”をクリックします。

標準では「ドキュメント」フォルダが選択されます。



メモ帳(アプリケーション)を終了させる方法の一つは、“ファイル”をクリックしメニューを表示させて、“終了”をクリックします。

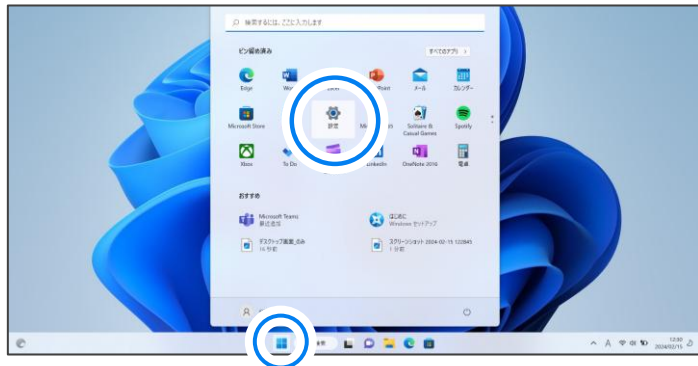
別の方法は右上の“×”をクリックします。

終了時に作成、編集した内容の保存がされていない場合は保存を促すメッセージが表示されます。

PIN(Windows Hello)の変更(設定)方法

WindowsへログインするためのPINコードを変更することができます。
説明中の画像は一例です、メーカーや機種により表示が異なる場合があります。

①



“スタートボタン”をクリックします。



←“スタートボタン”

“設定”をクリックします。



←“設定”アイコン

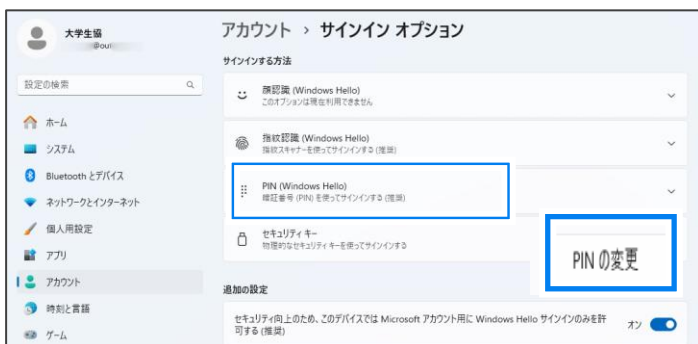
②



“アカウント”をクリックします。

“サインインオプション”が表示されますのでクリックします。

③



“PIN (Windows Hello)”が表示されますので、クリックします。

続けて“PINの変更”をクリックします。

④



「PIN」に現在使用中のPINを入力します。

「新しいPIN」と「PINの確認」に新しく設定するPINを入力し“OK”をクリックします。

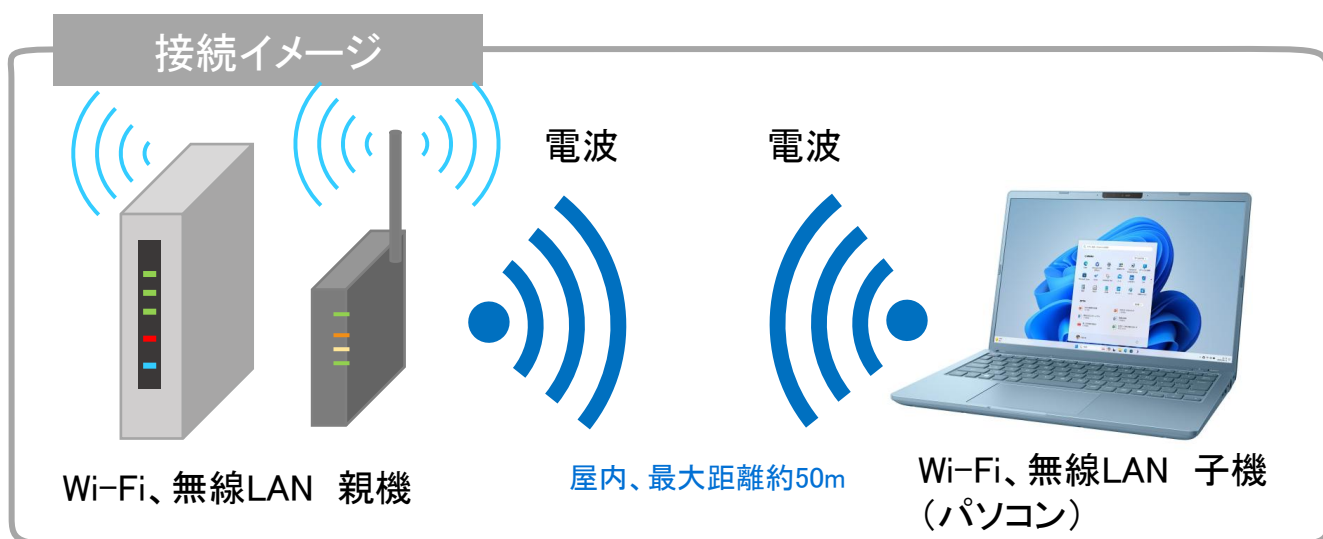
7. ネットワーク接続について

インターネットに接続する方法につきまして、どこに相談したらよいかわからない場合は、『無料パソコン電話サポート』をご利用ください。

Wi-Fi(無線LAN)での接続

一般的な接続方式としてWi-Fi(無線LAN)での方法を説明いたします。
前提として、お住まいにインターネット回線とWi-Fi環境がある、学校などのWi-Fi設備が利用できることが必要です。

パソコン(子機)と無線親機との間を電波を通じて、通信を行います。
電波が届く範囲ならばどこでもパソコンが使用可能です。



【Wi-Fi接続の利点】メリット

- ・配線が不要で、追加工事などの手間もかかりません。
- ・Wi-Fiの環境とID(SSID)とパスワードが判れば、どこでもインターネットが利用できます。
- ・ある程度の障害物が間にあっても接続が可能です、部屋を隔てても使用できます。

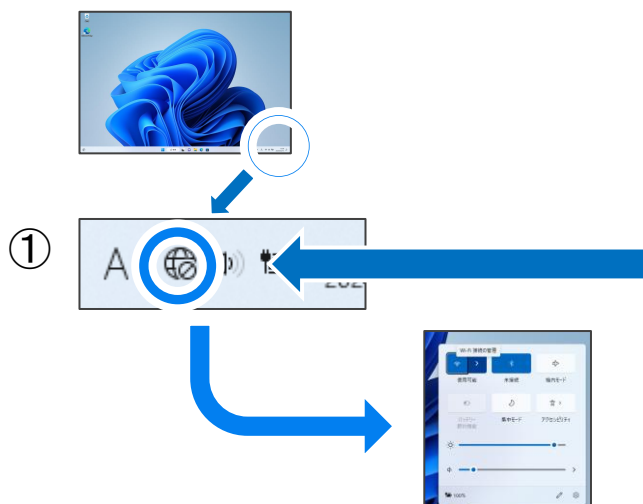
【Wi-Fi接続の不利点】デメリット

- ・有線接続と比べると安定性と通信速度が劣ります。
- ・電子レンジなど電化製品の影響を受け、接続に問題が発生する可能性があります。
- ・お住いの親機設置場所から電波の届く範囲であれば、他人から使用される、情報をのぞかれてしまう可能性があります、セキュリティ対策が必須となります。
- ・公衆Wi-Fi(フリーWi-Fi)は盗聴やのぞき見される可能性があります。
フリーWi-Fiを利用中は機密性の高い情報のやりとりは避けるようにしましょう。

次のページは具体的な接続方法の説明です。

Wi-Fi(無線LAN)でのインターネット接続方法

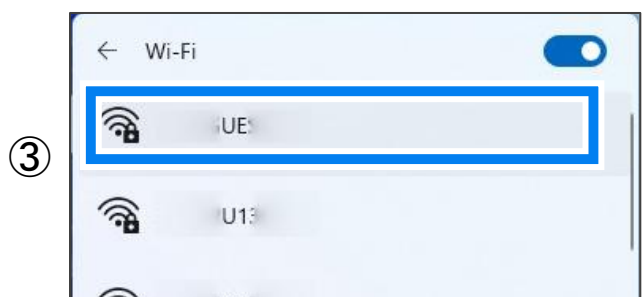
パソコンを操作して、Wi-Fi(無線LAN)の親機に接続します。



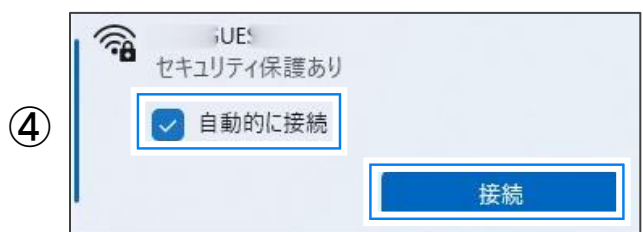
画面右下に表示されている、ネットワークのアイコンをクリックし、クイック設定を開きます。



クイック設定から“Wi-Fi接続の管理”アイコンをクリックします。

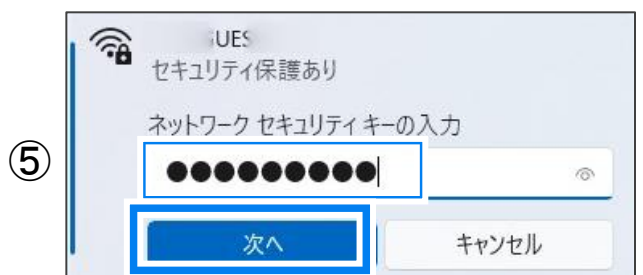


パソコン(Wi-Fi子機)から認識可能なWi-Fiの接続先リストが表示されます。使用するWi-Fiネットワークをクリックします。接続先が多く表示されている場合は、スクロールをして対象を探します。



“自動的に接続”をクリックし、チェックマークが入った状態にします。

“接続”をクリックします。

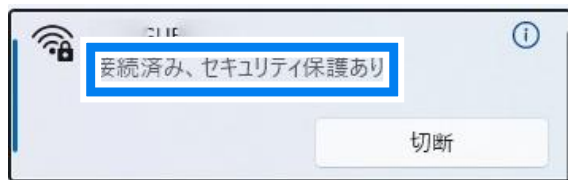


ネットワークセキュリティキーを入力します。(Wi-Fi接続用のパスワードです) 入力が終わりましたら“次へ”をクリックします。

Wi-Fi(無線LAN)でのインターネット接続方法続き

「このネットワーク上の他のPCやデバイスが、このPCを検出できるようにしますか?」と表示された場合は「いいえ」をクリックしてください。

⑥



正しく接続がされると、「接続済み」の表示がされます。



クイック設定に接続先の名称が表示されます。

ネットワークアイコンがWi-Fi接続の表示になります。
この状態でWi-Fi接続は完了です。

参考

Wi-Fi接続先(親機)により接続先の選択に「2.4GHz」、「5GHz」の2つの周波数が表示される場合があります。

Wi-Fiには2.4GHzと5GHzの2つの電波があり、それぞれの特性を考慮すると、以下のようなポイントがあります。

- ・2.4GHzは遠くまで電波が届き、障害物があっても接続しやすい特性があります。
- ・5GHzの電波は新しい規格で通信速度が速く、干渉する機器も少ないため安定した通信が可能です。

選択可能ならば、まずは5GHzを使用し、Wi-Fi接続が安定しないと感じたときは、接続先を2.4GHzへ切り替えてみてください。

有線LANでのインターネット接続方法

LANケーブルでのネットワーク接続を説明いたします。

より安全で安定した接続を求める場合や、Wi-Fiが接続できなかったり、OSインストール、アップデートなど大量のデータをダウンロードする際に使用をお勧めいたします。

接続先により、ケーブルを接続しただけで使えたり、パソコン側で設定が必要になる場合があります。

ご自宅(個人)のネットワークでは、ほとんどの場合ケーブルを接続するだけで使用が可能です。

学校や施設で接続される場合は管理者の方に確認をしてください。

接続イメージ

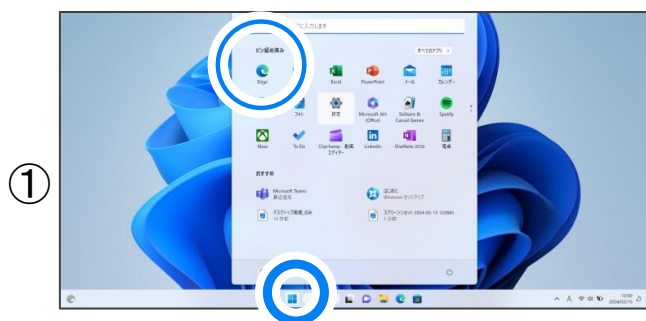


実際に正常にインターネット接続できるか、次のページからブラウザーを使用して確認を行います。

Microsoft Edge(インターネットブラウザ)について

Windows11でインターネットWebページを閲覧する際はEdge(エッジ)を使用します、ここではインターネットへの接続ができていることの確認のため、Edgeを起動します。

画像は一例です、メーカーや機種により表示が異なる場合があります。



“スタートボタン”をクリックし、スタートメニューを表示させます。

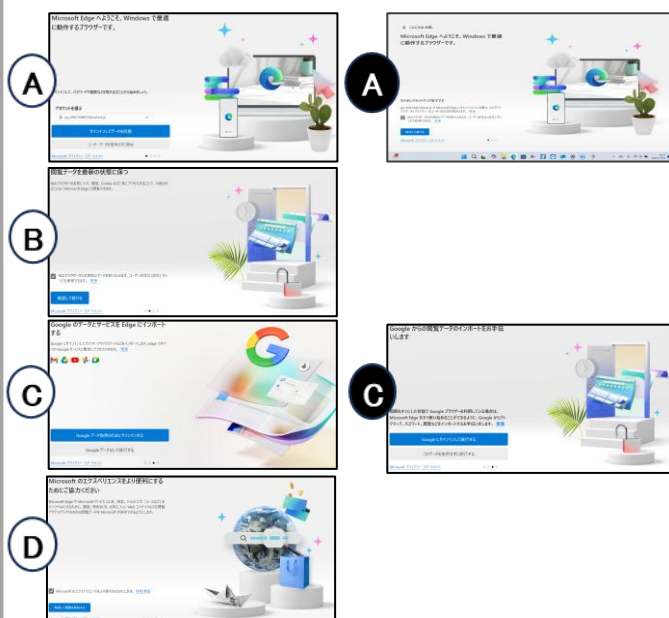
“Edge”をクリックします。



Edgeアイコン

Edgeを初めて起動すると、初回設定のメッセージが表示されます、既に設定をされた方は「⑤」へお進みください。

② ※Windowsのバージョンや設定により表示が変わる場合があります。



・「Microsoft Edgeへようこそ。Windowsで最適に動作するブラウザです。」は、

① “ユーザーデータを使用せずに開始”

② “確認して続ける”

のどちらかをクリックします。

・「閲覧データを最新に保つ」は、

③ “確認して続ける”をクリックします。

・「GoogleのデータとサービスをEdgeにインポートする」は、

④ “Google データなしで続行する”をクリックします。

・「Googleからの閲覧データのインポートをお手伝いします」は、

⑤ “このデータを使用せずに続行する”をクリックします。

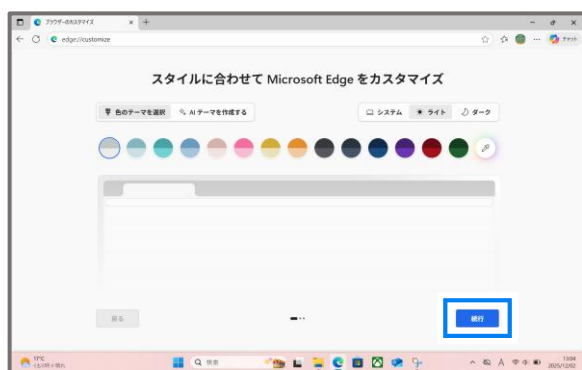
・「Microsoft のエクスペリエンスをより便利にするためにご協力ください」は、

⑥ “確認して閲覧を開始する”をクリックします。



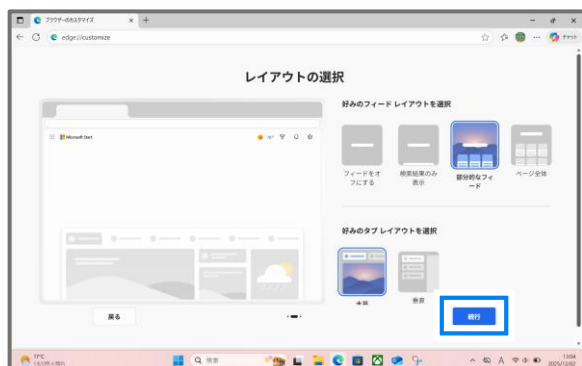
・「テーマを使用してMicrosoft Edgeをカスタマイズして自分を表現する」は、任意で右側にあるテーマを選択し、“次へ”をクリック

③



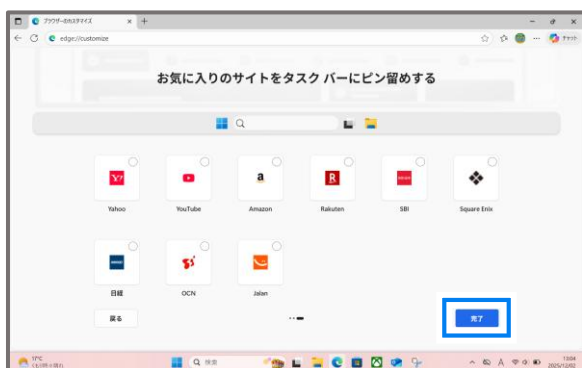
「スタイルに合わせてMicrosoft Edgeをカスタマイズ」と表示されたら、任意でテーマなどを選択し、“続行”をクリックします。

④



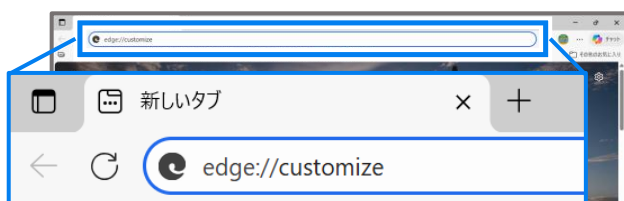
「レイアウトの選択」が表示されたら、任意でレイアウトを選択し、“続行”をクリックします。

⑤



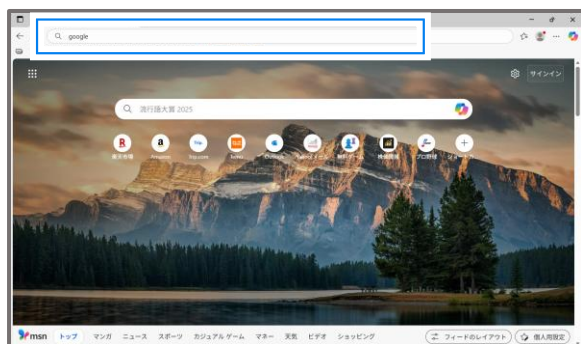
「お気に入りのサイトをタスクバーにピン留めする」は、ご利用されるサイトに任意でチェックを入れ、“完了”をクリックします。

参考



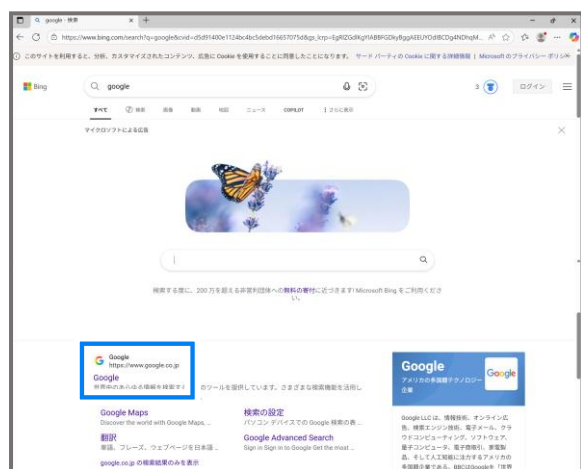
※再度「手順③～⑤」を設定する際は URL 入力欄に
“ edge://customize/ ”と入力し、
Enter キーを押下してください。

⑥



アドレスバーに閲覧したいWebページのアドレスか検索キーワードを入力します。

⑦

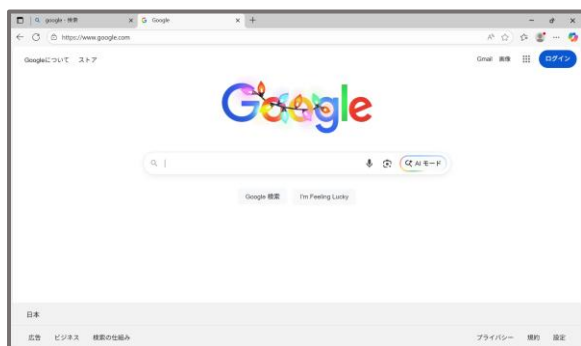


例えば、GoogleのWebページを表示させたい場合は、

“google”と入力すると、インターネット上でキーワードを検索した結果が表示されます。

←検索結果から、目的のWebページを選んでクリックします。
例では一番上に表示されています。

⑧

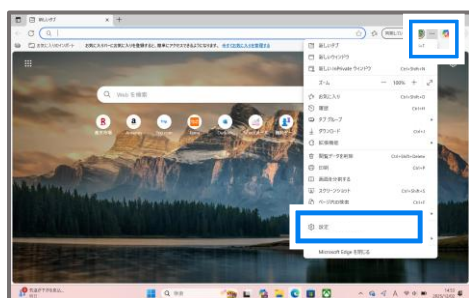


“www.google.co.jp”と入力すると、直接GoogleのWebページを表示させることができます。

別のWebページを入力する場合は、アドレスバーに表示されている文字を“delete”キーなどで消し、空白にしてから新たに入力します。

Edgeを起動したときに最初に表示される、Webページを変更することができます。

①



Edgeが起動している状態で、画面右上の“…”をクリックし、表示されたメニューの“設定”をクリックします。

②



左列の“スタート/ホーム/新規タブページ”をクリックします。

③



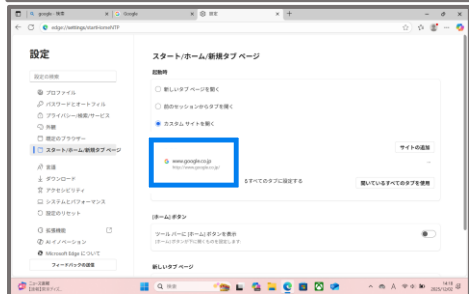
右側の「起動時」の“カスタム サイトを開く”のボタンをクリックしてください。
続けて右の“サイトの追加”をクリックします。

④



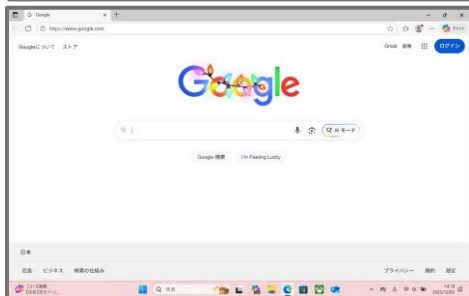
「サイトの追加」の「example.com」欄にGoogleのURL: www.google.co.jp を入力し、“追加”をクリックします。

⑤



入力したGoogleのURL情報等が表示されていることを確認します。

⑥



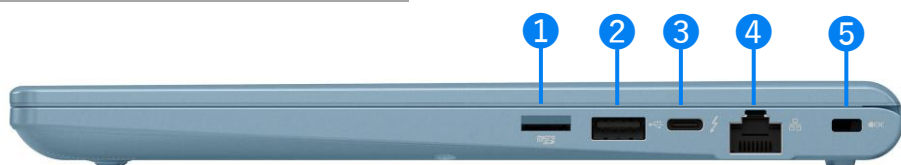
次回、Edgeを起動するとGoogleが表示されます。複数ページの起動登録もできるので、よく使うページを登録してみましょう。

8. 活用編

パソコンの各種ポート、インターフェースについて

パソコンにはいくつか種類の異なる、差込口(ポート)があります。それぞれ用途によって使い分けますが、ここでは代表的なポートをご紹介します。

右側面



- ①SDカードスロット(microSD)
- ②USB3.2(Gen1) Type-A
- ③Thunderbolt™4(USB 4Type-C)

- ④LANコネクタ
- ⑤セキュリティロックスロット

左側面



- ⑥Thunderbolt™ 4 (USB4 Type-C)

- ⑨USB3.2(Gen1)Type-A

- ⑦マイク入力／ヘッドホン出力端子

- ⑧HDMI出力端子

プリンタとのWi-Fi Direct接続時について

プリンタに初めてWi-Fi Directで接続する場合は、「セキュリティキーの入力」に切り替えて指定のキーを入力してください。

活用編続き USB機器について

USBポートは対応した機器を接続すれば自動的に認識され、すぐに使用することができます、ここではUSBの記憶装置を紹介しています。

USB記憶装置の例



USBメモリー



USB HDD／SSD

USBメモリーやUSB HDD/SSDは「外部ストレージ」とも言い、データのバックアップや受け渡しに手軽で便利です。

ただし、小さなものなので、なくしたり壊したりしないように注意しましょう。

特に個人情報が含まれるデータを保存する際は紛失に注意です。

(パスワードで保護できる機器もあります)

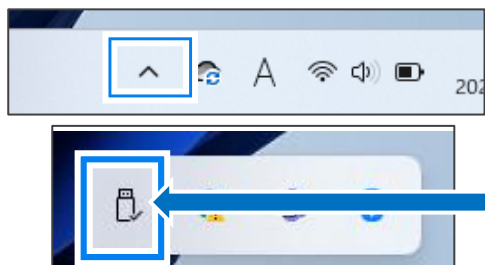
△重要

外部ストレージを取り外す場合は、必ず取り外しの操作を行ってください、場合によっては保存したデータが破損する恐れがあります。

USB記憶装置を取り外す場合

画面は一例です

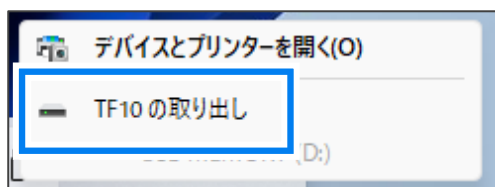
①



タスクバーの右側にある“^”ボタンをクリックします。

すぐ上にアイコンが表示されますので、「ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す」アイコンをクリックします。

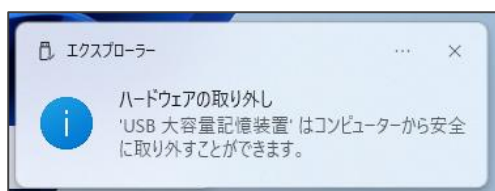
②



表示されるメニューから、取り外ししたいUSB記憶装置を選びクリックします。

ここでは「TF10」という製品名のUSBメモリーが表示されています。

③



「ハードウェアの取り外し」が表示されたことを確認して、USB機器を取り外します。

USBマウス、キーボードなど記憶装置ではない機器はそのまま抜いても問題はありません。

活用編続き バックアップについて

パソコンや外部記憶媒体は突然の故障や紛失・盗難などで、データが失われる危険性があります。

重要なデータや思い出の写真などは、複数個所に保存することをお勧めします。

バックアップ先について

データ保存先の例として、下記のような媒体があります。

- ①USB接続の記憶媒体(USBメモリー、HDD/SSD、光学ドライブ)
- ②SDカードの記憶媒体
- ③インターネット上のストレージサービス

バックアップ方法について

画面は一例です

必要なデータを手動でコピーする、OSの機能を利用するなどの方法があります。
ここでは、Windowsの自動バックアップ機能を紹介します。



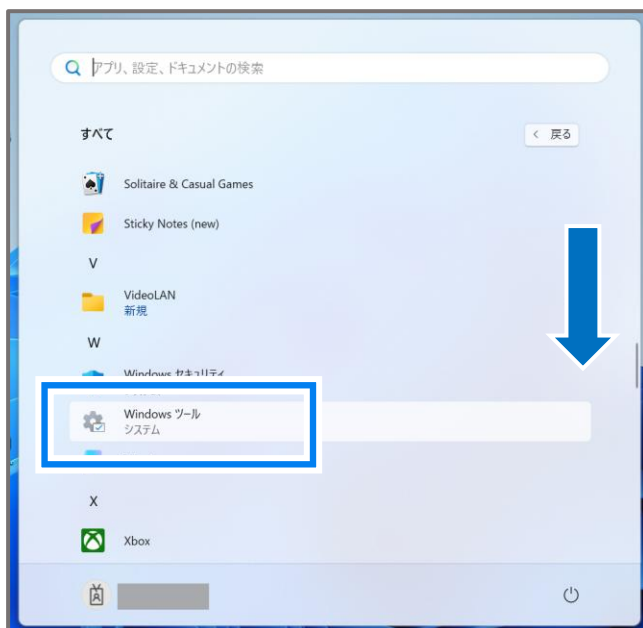
①

“スタートボタン”をクリックします。



←“スタートボタン”

“すべて”をクリックします。



②

アプリケーションのリストが表示されたら、下にスクロールさせて、“Windowsツール”を探し、クリックします。

バックアップ方法について 続き

画面は一例です

③

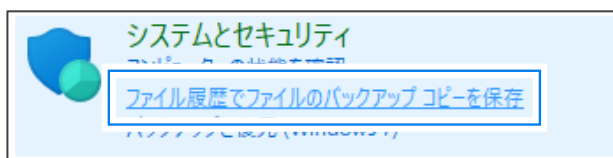


Windowsツールのウィンドウが開きます、“コントロールパネル”を探して、ダブルクリックで開きます。

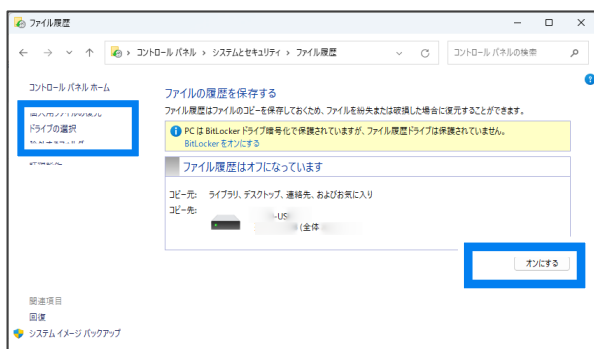
④



システムとセキュリティの“ファイル履歴でファイルのバックアップコピーを保存”をクリックします。

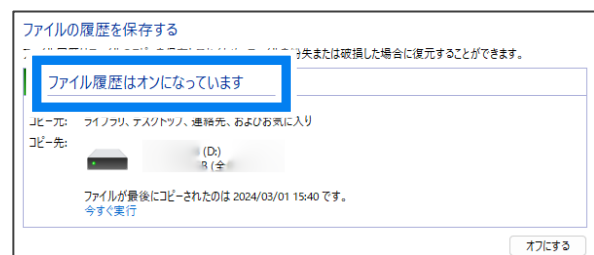


⑤



「ファイルの履歴を保存する」が表示されます。バックアップ先が表示されますので、相違が無ければ、“オン”をクリックします。バックアップ先を変更する場合は、“ドライブの選択”をクリックします。

⑥



「ファイル履歴はオンになっています」となっていることを確認します。

アドレス帳・お気に入り・デスクトップ・ライブラリなどを指定ディスクに定期的に保存します。詳細設定で保存頻度を変更することが可能です。（標準では1時間ごとに保存されます）

重要なデータは自動保存以外にも別の場所に保存されることをお勧めいたします。

◆ アップデート

ソフトウェアの小規模な更新、改善、修正、機能追加などのことを呼びます。
大規模な更新の場合はアップグレードと呼びます。

◆ アプリケーションソフト、アプリ

文書の作成、数値計算など、ある特定の目的のために設計されたソフトウェアのことを呼びます。

◆ インストール

パソコンでアプリケーションソフト（Wordやメールソフト等）が使用できるように設定する為の作業です。

◆ シリアル番号

ハードウェアのメーカー側で所有者の管理や偽装を防止するなどの目的で製品ごとに割り当てた番号。修理に出したり、ユーザー登録時に必要になります。

◆ スタートメニュー



パソコンのスタートアイコンクリック後に表示される基本となる操作画面です。

◆ ソフトウェア

OSとアプリケーションソフト等のプログラムの総称をソフトウェアと呼びます。

例：OS（Windows、macOS 等）

アプリケーションソフト（Word、Edge、ウイルスバスター等）

◆ ダウンロード

インターネット上からファイル（文章、音楽、画像等）をパソコン上に保存する作業です。

◆ バックアップ

パソコンの中のデータをUSBメモリや外付けHDD等にコピーを行う作業です。
パソコンの故障や操作ミスによってデータが消えてしまった時の為に行います。
バックアップ例：文書、写真、音楽、メール、インターネットのお気に入り等

◆ ハードウェア

パソコンを構成している部品や周辺機器等の総称をハードウェアと呼びます。
例：HDD、メモリ、キーボード、マウス、ディスプレイ、プリンタ、iPad等

◆ プロダクトキー

ソフトウェアのメーカー側でユーザ管理やソフトウェアの不正コピー防止のために発行している番号。ソフトウェアのインストール時やユーザー登録時に使用する。

◆ メモリー

データの保存場所であるHDDから、データを処理するCPUに渡すデータを一時的に置いておくための内部部品です。
メモリーの容量が大きいと一度にたくさんのアプリケーションソフト（Word、ブラウザ等）を使用できたり、動作がスムーズになります。

◆ ライセンス

ソフトウェアを購入した際にソフトウェアを使用する権利のこと。

◆ リカバリ(初期化)

パソコンを購入時の状態に戻す作業です。
パソコンが起動しなくなった際などに行います。

◆ ログイン/ログオフ

ログインはパソコンを利用したり、ホームページ内のサービスを利用する際にIDとパスワードを入力して認証をする作業です。
ログオフはパソコンやサービスの利用を終了する際に行う作業です。

◆ CPU(シーピーユー)

パソコン全体の処理・計算を行う、頭脳と言える部品です。
CPUが良いものであるほど、コンピュータは複雑で多くの処理を速く安定して行えます。

◆ HDD(ハードディスク)

パソコンの中でデータの読み書きを行う装置になります。
容量が多ければ多いほどたくさんのデータを書き込むことができます。

◆ LAN

ケーブルや無線などを使って、同じ建物の中にあるコンピュータや通信機器、プリンタなどを接続し、データをやり取りするネットワークです。

◆ OS(オペレーティングシステム)

WindowsやMac等の主にパソコンのソフトウェアやハードウェアを管理する機能になります。

◆ SSD(エスエスディ)

HDD同様データの読み書きを行う装置になります。
SSDはHDDの機構部分をなくし、電子部品で構成された装置でHDDに比べ高速で消費電力が少ない特徴があります。

◆ Wi-Fi(ワイファイ)

無線LANの規格のひとつ。
最近ではWi-Fi＝無線LANといった意味で使われることが多いようです。

